



新潟県中学校教育研究会

2021

新潟県中学校教育研究会

class

学び合う授業

新潟県中学校
教育研究会
授業情報誌
第6号 2021

学び合う授業づくりの情報誌

第6弾

主体的・対話的で深い学び

「見方・考え方」に着目し、「深い学びにいたる学び合う授業」によって生徒に確かな資質・能力を育む研究活動の紹介。

教科別の学び合う授業のイメージや手立てを得ることができる。

授業ナビで、学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができる。

class

学び合う授業

新潟県中学校
教育研究会
授業情報誌
第6号 2021

学び合う授業づくりの情報誌

第6弾

主体的・対話的で深い学び

「見方・考え方」に着目し、「深い学びにいたる学び合う授業」によって生徒に確かな資質・能力を育む研究活動の紹介。

教科別の学び合う授業のイメージや手立てを得ることができる。

授業ナビで、学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができる。

授業情報誌 Class 第6号発刊にあたって

「日々の授業の充実」 継続した授業改善を目指し 学びは止めない

県中教研では、昨年度は、新型コロナウイルス感染症による休校措置による履修の遅れや、感染防止対策等により、各校において教育活動の制限を余儀なくされている状況を鑑み、諸事業を凍結し、次年度へ先送りしました。しかし、コロナ禍であっても、研究・研修の歩みを止めないために、重点目標『「見方・考え方」に着目し、「深い学びにいたる学び合う授業」によって生徒に確かな資質・能力を育む研究活動を進める』に沿った活動を可能な限り継続してきました。昨年度発行した「授業情報誌 Class 別刊・学びを止めない」を改めて開くと、そこには、各地区における着実な実践の姿が数多く掲載されています。オンライン等も活用して研修・研究を進めている様子や、生徒がzoomを活用し、総合的な学習や生徒会の活動に取り組む様子等、生徒や職員が困難な状況に負けることなく、着実に前に進もうとする姿があります。このような姿があるのも、県中教研の基本方針にある「研究成果を各学校、各会員の日常の教育実践に生かし、会員一人一人の研究意欲の高揚と資質・能力の向上を図る」ということが、成果として表れているからだと考えています。また、オンラインでの授業の必要感に迫られ、GIGAスクール構想が前倒しになるなど、学校を取り巻く環境も大きく変化しました。まだまだ不十分とはいえ、各学校で一人一台のタブレット端末の活用をはじめとした、ICTを活用した授業や教育活動が飛躍的に進んできていることも事実です。これもまた、現状に満足することなく、授業改善や教育活動の充実に取り組むことが日常化しつつある表れであると思っています。

さて、今年度も、変更した重点目標の下、指定研究等を推進しています。この目標の変更は、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、これまでの県中教研の成果と課題を明らかにする中で、「ファシリテーション (FT) をすることが目的化しているのではないか」「学び合う授業は実践されてはいるが、生徒の思考の深まりにつながっていないのではないか」等の課題を受け止めて変更したものです。県中教研の取組を振り返ると、一斉・講義中心型授

新潟県中学校教育研究会

会長 大橋 伸夫

(新潟市立白新中学校 校長)



業の延長線で授業を改善するのではなく、「学び合う授業」によって「授業改革」を進める。そして、その手立てとして、FTを取り入れてきたという経緯があります。それが、現在では、県内の各学校、各会員に定着し、当たり前のように「学び合う授業」が実践され、FTがいたるところで行われるようになりました。このままの授業ではいけないと「授業改革」に取り組んできた時期から、これからの生徒に必要な学力の向上をどう図るのか、必要な資質・能力をいかに育むのか、そのための「授業改善」「日々の授業の充実」をいかに推進するのかという段階へと、各学校・各会員の取組が一步進んだからこそ必要になった変更であると考えています。各地区での指定研究では、この変更の趣旨を十分に汲み取り研究を進めていただいていることと思いますが、何よりも大切なことは、このことが県下一人一人の会員の日常に広がり活かされることです。この情報誌Class創刊の目的の一つでもあります。

新学習指導要領が全面実施になった今年度、各学校では、新しい教育課程に基づく授業、教育活動が実践されていることと思います。コロナ禍にあって様々な制約がある中でも、子供たちにとって貴重な一日一日を無駄にしてはいけないと、簡単にできないと止めるのではなく、いかにできるのかを探り、工夫し実践されていることと思います。子供たちの成長、学びは立ち止まることはありません。だからこそ、私たちも学びを止めてはいけないのです。これまで通りが通用しない現実と直面するとともに、新たな課題にも正面から向き合わなければいけない中、本当に大切なことは何かを問い、即座に実践につなげていくことが求められています。そんな時だからこそ、私たちは、思考停止することなく、未来を見据え歩みを進めていかなければならないのだと強く感じています。

終わりに、会員一人一人が、学び続けるという強い意志をもって、本誌を有効に活用していただくことを期待しています。

目次

巻頭言 第6号発刊にあたって
「日々の授業の充実」継続した授業改善を目指し学びは止めない …… 2
新潟県中学校教育研究会 会長 大橋 伸夫

《指定研究推進都市および2年目研究会 会場校》 …… 6

1 各指定研究チームが提案する資質・能力育成の手立て

社会

「見方・考え方」を働かせる授業づくりを！ …… 8
県中教研 社会部 全県部長 若林 靖人

思考ツールを活用し質の高い吟味と考察を可能に!! …… 10
糸魚川市中教研 社会科部

深い学びに至るポイントは、「当事者意識をもたせる工夫」と
「視点を基にした学び合い」 …… 12
十日町市・中魚沼郡中教研 社会部

学ぶ必然性のある課題を、関わり合いを通じて解決し、深い学びを実現！ …… 14
新潟市中教研 社会部

単元を貫く課題の解決に向けて、見方・考え方を働かせて
収集・分析、比較・検討を行うことで学びを深めます …… 16
五泉市東蒲原郡中教研 社会部

理科

課題設定に配慮し、「見通し」と「振り返り」にも「見方・考え方」を働かせて、
深い学びを実現しよう …… 18
県中教研 理科部 全県部長 木ノ瀬 隆幸

学んだ知識を活用し、課題解決することで深い思考の場面を！ …… 20
上越市中教研 理科部

「既習事項の活用」を大切にされた学習活動で知識をつなぎ、学びを深めます！ …… 22
加茂・南蒲中教研 理科部

「だから、こう動くのだろう」立体モデルで説明できる生徒の育成 …… 24
新潟市中教研 理科部

「何でだろう？」を自分たちで解決する生徒の姿を目指します！ …… 26
村上市岩船郡中教研 理科部

英語

生徒に「目指す深い学びの姿」を実現する授業づくりを！ …… 28
県中教研 英語部 全県部長 重野 準司

自分の考えや思いを伝える生徒の育成
～4技能5領域のバランスが取れた言語活動の実践～ …… 30
柏崎市刈羽郡中教研 英語教育研究部

目指せ！即興的なやりとり育てよう！アクティブイングリッシュラーナー	32
長岡市中教研 英語部	
目的・場面・状況を明確にした単元のゴールを共有し、深い学びを目指す ～チーム新潟市の取組～	34
新潟市中教研 英語部	
積極的に英語を用いてコミュニケーションを図る生徒の育成	36
五泉市・東蒲原郡中教研 英語部	

保健体育

明るく豊かなスポーツライフの実現を目指して	38
県中教研 保健体育部 全県部長 阿部 修	
マット運動集団演技発表に向けて、学習用iPadをFTに活用！	40
上越市中教研 保健体育部	
動きのコツやポイントを共有し、練習場面を工夫しながら、完成度を高める ～器械運動（マット運動）～	42
見附市中教研 保健体育部	
単元構成の工夫とiPadによる学び合いで深い学びにつなげる	44
新潟市中教研 保健体育部	
実践→交流・改善（ファシリテーション）→実践を重ねて主体的な学びへ	46
村上市岩船郡中教研 保健体育部	

進路指導

自分の過去を振り返り、他者の意見や考えを参考にしながら自分の未来を考える	48
県中教研 進路指導部 全県部長 佐藤 文俊	
キャリア・パスポートの中の「自分」と向き合い、 未来の「自分」を描くことができる生徒を目指す	50
上越地区中教研 進路指導部	
持続可能な社会の担い手となる意識を高めるキャリア教育の実践	52
長岡市・三島郡中教研 進路指導部	
「キャリア・ノート」の活用で、生徒が成長を実感できる授業	54
新潟市中教研 進路指導部	
体験的で探求的な課題解決型の活動を取り入れ、 自己の生き方を見つめる生徒の育成を目指します	56
新発田市中教研 進路指導部	

② 指定研究1年目の進捗状況

国語	59
数学	60
道德	61
美術	62
技術・家庭	62
特別活動	63
総合的な学習の時間	63

③ 授業ナビゲーション

県中教研 授業ナビゲーション	65
----------------	----

編集後記	72
------	----

新潟県中学校教育研究会 理事長 藤本 洋則

指定研究推進郡市および2年目研究会 会場校


◇ 令和1・3年度指定 (上段：指定研究推進郡市, 中段：2年目研究会 会場校, 下段：開催日)

	上 越	中 越	新 潟	下 越
社 会	糸魚川 (糸魚川市立糸魚川東中学校) 令和3年11月2日(火)	十日町・中魚 (津南町立津南中学校) 令和3年11月2日(火)	新潟 (新潟市立石山中学校) 令和3年11月4日(木)	五泉・東蒲 (五泉市立村松桜中学校) 令和3年10月27日(水)
理 科	上越 (上越市立直江津中学校) 令和3年11月17日(水)	加茂・南蒲 (加茂市立加茂中学校) 令和3年11月9日(火)	新潟 (新潟市立新津第一中学校) 令和3年11月4日(木)	村上・岩船 (村上市立岩船中学校) 令和3年11月11日(木)
英 語	柏崎・刈羽 (柏崎市立瑞穂中学校) 令和3年11月24日(水)	長岡・三島 (長岡市立関原中学校) 令和3年11月26日(金)	新潟 (新潟市立潟東中学校) 令和3年11月4日(木)	五泉・東蒲 (五泉市立五泉中学校) 令和3年11月26日(金)
保健体育	柏崎・刈羽 (柏崎市立第三中学校) 令和3年11月19日(金)	見附 (見附市立西中学校) 令和3年11月10日(水)	新潟 (新潟市立山の下中学校) 令和3年6月29日(火)	村上・岩船 (村上市立荒川中学校) 令和3年11月2日(火)
進路指導	上越 (上越市立大島中学校) 令和3年9月17日(金)	長岡・三島 (長岡市立大島中学校) 令和3年10月29日(金)	新潟 (新潟市立東石山中学校) 令和3年11月17日(水)	新発田 (新発田市立七葉中学校) 令和3年11月5日(金)

◇ 令和3・4年度指定 (上段：指定研究推進郡市, 下段：2年目研究会 会場校)

	上 越	中 越	新 潟	下 越
国 語	柏崎・刈羽 (柏崎市立第二中学校)	長岡・三島 (長岡市立川口中学校)	新潟 (新潟市立五十嵐中学校)	阿賀・胎内・北蒲 (阿賀野市立京ヶ瀬中学校)
数 学	妙高 (妙高市立妙高中学校)	南魚沼・南魚 (南魚沼市立大和中学校)	新潟 (新潟市立東新潟中学校)	新発田 (新発田市立豊浦中学校)
道 徳	上越 (上越市立板倉中学校)	魚沼 (魚沼市立広神中学校)	新潟 (新潟市立白新中学校)	五泉・東蒲 (五泉市立川東中学校)
美 術	—	長岡・三島 (長岡市立東中学校)	—	村上・岩船 (村上市立村上東中学校)
技 術 ・ 家 庭	柏崎・刈羽 (柏崎市立鏡が沖中学校)	—	新潟 (新潟市立新津第五中学校) 新潟市立山の下中学校	—
特別活動	上越 (上越市立牧中学校)	—	新潟 (新潟市立宮浦中学校)	—
総 合	—	三条 (三条市立本成寺中学校)	—	佐渡 (佐渡市立金井中学校)

② 各指定研究チームが提案する 資質・能力育成の手立て



今年度に研究会を実施する20のチームが提案する
深い学びの姿と、そこにいたる手立てを紹介します。

社会

「見方・考え方」を働かせる 授業づくりを！

「資質・能力」の育成するためには、「深い学び」の実現が必要です。「深い学び」は問題解決や課題解決といった一連の学習過程の中で実現を目指すもので、教科の特性を踏まえた思考・判断・表現を通した学びです。そのポイントになるのが「見方・考え方」です。ここでは、「見方・考え方」を働かせる「授業づくり」について紹介します。



県中教研 社会部 全県部長
小千谷市立小千谷中学校

校長 若林 靖人

ポイント1 「見方・考え方」を働かせる授業づくりの視点から授業改善を進める。

「見方・考え方」を働かせるためには、単元（授業のまとまり）の目標に向かって学習の過程を工夫することが必要です。しかし、「見方・考え方」は、社会的事象の特色や意味などを考えたり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする（思考力、判断力）ための手段、スキルです。それをどう用いて、授業づくりを行うかを次の4つの視点から考えましょう。

1 問いの構成の工夫

「中学校学習指導要領解説 社会科編」に記載されている「問い」の例（地理的分野p.34～36、歴史的分野p.85、公民的分野は（2）内容の中項目ごと）は、「見方・考え方」との関係から示されています。単元のプロセスの中で「問いの構想」をすることは、「見方・考え方」を働かせる授業づくりにとって大切になります。

<引用・参考文献> 澤井陽介・加藤寿朗著2017年「見方・考え方 社会科編」東洋館出版社

2 教材化の工夫

社会的事象の特色や相互関連、意味を考え、社会生活についての理解につなげるために、教材そのものを捉えさせる「見方・考え方」を単元でどう位置付けるかを考えることが必要です。

3 資料提示の工夫

社会科では、地図や年表、図表などから情報を読み取ることを重視してきました。その活用において、子どもが「見方・考え方」を働かせることが期待できるからです。そのため、資料の内容はもとより資料の加工や提示の仕方を工夫することが必要になります。

4 対話的な学習活動の工夫

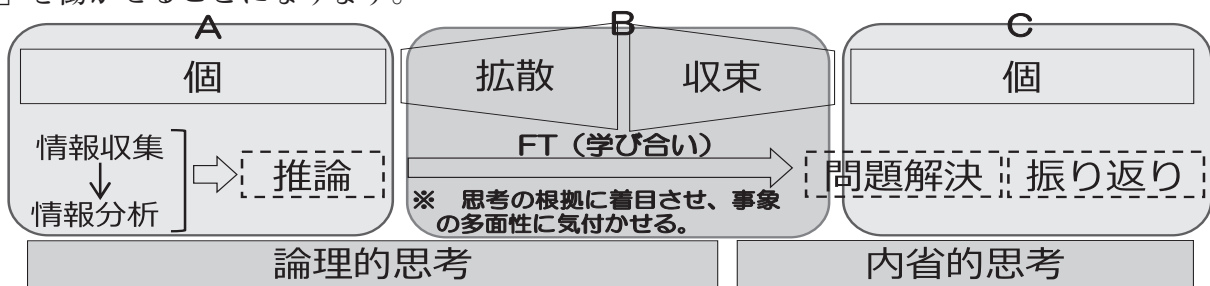
子ども同士の交流で、多様な「見方・考え方」へ鍛えられることが大切です。具体的には、次のポイント2で述べます。

ポイント2 批判的思考において「見方・考え方」を働かせる。

「対話的な学習活動の工夫」を『Class第4号』で提案した、「批判的思考力」で考えます。

「社会的事象の見方・考え方」は、「社会的事象を①位置や空間的な広がり、②時期や時間の経過、③事象や人々の相互関係に着目して捉え、^ア比較・分類したり、^イ総合したり、地域の人々や国民生活と^ウ関連付けること」と定義されています(小学校学習指導要領解説社会科編p.18～19)。これを下図と関連付けると、A～Cの3つの段階で「見方・考え方」を働かせることになります。

Aでは下線①～③などの視点で社会的事象を捉えさせること〔根拠を明確にし、視点は限定しない〕、Bでは下線ア～ウなどの方法により学び合い等を通して思考させること〔多様な視点があることを理解する〕、CではBの学び合いをもとに多様な視点で社会的事象を捉え、その特色や意味を理解させることとなります。多様な「見方・考え方」から、自分の判断を選ぶということを可能にするためにも「学び合い」は有効となります。



※「Class第4号」p.17の図に加筆 (引用・参考文献)「批判的思考について」京都大学大学院教育学研究科教育認知心理学講座教授 楠見孝氏 (中教審高等学校教育部会H24.9.7)

社会 重点方針

自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会科の学習指導に努める。

- 生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。
- 学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。
- 資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。

社会 学び合い10

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項を把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位の目標や指導計画を立てている。
③	生徒が興味・関心をもつ課題設定	生徒が好奇心をもったり、学習意欲が高まったりするような課題を設定している。
④	学習形態の工夫	課題解決のために一斉・個・ペア・グループなどの学習形態を場面ごとに設定している。
⑤	日常生活や社会との関連	生活と関わらせたり、ニュースなどを活用したりして授業を進めている。
⑥	話し合いの目的やルールの特明確化	話し合いのルールや方法を具体的に提示している。
⑦	考察場面の設定	根拠をもとに多角的に考察し、様々な方法で表現する場を設定している。
⑧	図・表・資料等の適切な活用	図・表・資料などを適切に読み取り、事実にもとづいて自分の考えを表現する活動の充実を図っている。
⑨	意見交換の場面の設定	⑧との関連を図りながら、他の意見を聞き、自分の考えを深めさせている。
⑩	評価・振り返り	他者評価や自己評価を評価シートなどで評価し、自分の学習活動を振り返る場面を設定している。

社会 〈上越地区〉

思考ツールを活用し 質の高い吟味と考察を 可能に !!



糸魚川市中教研 社会科部

研究推進責任者(左) 糸魚川市立青海中学校

佐藤 直己

会場校担当(右) 糸魚川市立糸魚川東中学校

飯塚 隆雄

こんな深い学びの姿を目指します

社会科において、社会的な見方・考え方を働かせ、自分の言葉で課題に対する意見や考えをもつことが大切です。そのためには、「多様な意見を尊重し、検討・吟味（クリティカルシンキング）し、社会的事象を多面的、多角的に捉え直す活動」が必要だと考えました。話し合いの中で互いの意見を交換し、自身の考えを深めようとする姿を目指し、思考ツールを活用したり、話し合いのスキルを発揮したりしていきます。

深い学びへのステップ

仲間との学びを自分の学びにしていく工夫をします。

ステップ1

我がこととして捉え、社会的な見方、考え方を基に考察できる課題を設定する。

ステップ2

課題を多面的・多角的に捉えることができる思考ツールを活用する。

ステップ3

話し合いのスキルを発揮し、仲間と考えを深め合える活動を設定する。

➡ステップ設定の理由

生徒が仲間や自分自身で深めていくためには、社会科に必要な自分の思考をまとめていく力、伝える力、聞く力が必要だと考えました。しかし、ただ「まとめる」、「聞く」、「伝える」では学びを深めるのには不十分であり、その活動に社会的な見方・考え方を働かせることが大切です。この3ステップで、社会科の指導力向上を図ります。

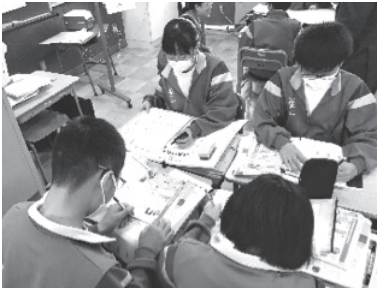
➡ステップのメリット

- ① 我がこととして捉えることは、深く考えるためのきっかけとなります。
- ② 複数の社会的事象(点)を有機的に結び付けることで、課題解決の糸口が見えてきます。
- ③ 意見や考えを吟味することで、学習が深まります。

ステップ ①

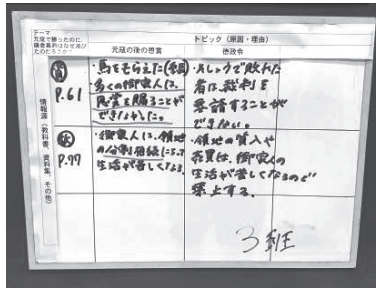


我がこととして捉えられるよう、生徒の生活と密接に関係のあるものを例示し、課題設定を行います。



社会的な見方・考え方(そこはどのような場所か?)を働かせ、よりよい社会の実現に向けて、深く考えるためのきっかけとします。

ステップ ②



課題を多面的・多角的に捉えられる、思考ツールを活用します。社会的事象を有機的に結び付け、根拠をもって自分の考えがまとめられるようにします。

ステップ ③



話を広げたいときは

オープンクエスチョン

- ~という? ○ なるほど
- どんな感じ? ○ それで、それで
- もう少しくわしく教えて
- たとえば?
- 具体的にどんな感じ?

相手をもっと話したくなる返答で、話を広げたり深めたりしましょう。

学び合いが深まるよう、オープンクエスチョンを使ってグループ活動を行います。聞きっぱなしで終わることなく、仲間の意見や考えを吟味し合うことで、収束の場面で追課題を探究したり、自身の思考をまとめたりすることができます。

指定研究会情報

上越地区(糸魚川市中教研)社会科教育研究発表会

◇研究主題: 根拠を基に、学びを深め合う生徒

東海地方の工業が盛んである理由について、自然条件と社会条件を資料から読み取りながら考え、東海地方の産業を多面的・多角的に捉えます。グループ活動において、根拠を明確にしながら互いの意見を吟味する場を設けることで、個々の学びを深めていきます。

◇月 日: 11月2日(火) ◇会場校: 糸魚川市立糸魚川東中学校(配信)

◇公開: 1学級 2年「中部地方」授業者 飯塚 隆雄

◇指導者: 上越市立和田小学校 校長 小池 修

社会 〈中越地区〉

深い学びに至るポイントは、 「当事者意識をもたせる工夫」 と「視点を基にした 学び合い」



十日町市・中魚沼郡中教研 社会部

研究推進責任者(左) 十日町市立十日町中学校

藤 櫛 悠太

会場校担当(右) 津南町立津南中学校

伊 佐 勝

こんな深い学びの姿を目指します

学習課題と自分とのつながりを感じ、自分の課題として捉えることができれば当事者意識をもって生徒は学んでいきます。本実践では、過疎化の進行や人口減少問題といった地域が直面している課題を、自分たちの問題として捉えながら学習を進めていきます。課題解決に向けて、「見方・考え方」を働かせながら多面的・多角的に考察し、他者との交流を通して自己の考えを深めていく姿を目指します。

深い学びへのステップ

ステップ1

自分とのつながりがもてる課題の設定と、課題追究のための単元構成を行う。

ステップ2

「見方・考え方」を働かせた考察と意見交流の場面を設定する。

ステップ3

吟味・検討のための視点をもたせた学び合いと、再考の場面を設ける。

➡ステップ設定の理由

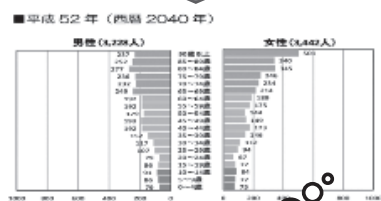
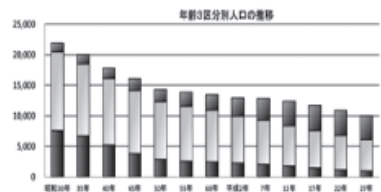
学び合いを行うものの、対話の内容が噛み合わなかったり、深まりに欠けたりすることがあります。そこで、深い学びに至る学び合いにするために、「見方・考え方」を働かせた学びに着目しました。

➡ステップのメリット

- ① 当事者意識をもって追究活動に取り組み、主体的な学びが期待できます。
- ② 考えの根拠になるとともに、根拠を基にした学び合いとなります。
- ③ 視点をもたせることで、考えを捉え直すことができます。

ステップ ①

人口の推移と人口ピラミッド



自分たちの町は将来、大丈夫なのかな…

地域の問題を「単元を貫く学習課題」に据えて、単元をデザインします。切実感のある課題に迫ることで追究意欲を高めます。

ステップ ②

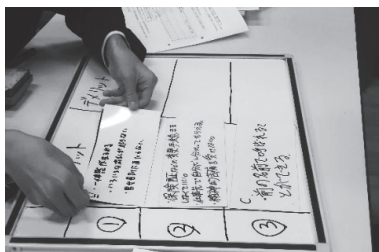
【個人での考察】

この地域の特徴は〇〇だから…



見方・考え方を働かせながら思考します。

【意見交流】



それぞれの視点から意見交流を行います。調べた事柄を共有するとともに、他者の考えを比較します。

ステップ ③

吟味・検討のための視点を示して、学び合いを行います。

△△の視点から考えると、どうかな？



▽▽の視点から考えると、これはどうなのかな？

集団から個の学びへ

【再考の場面】



視点を基に考えを捉え直すことができます。自己の考えを深め、学びを深めます。

指定研究会情報

中越地区（十日町市・中魚沼郡中教研）社会教育研究発表会

◇研究主題：「当事者意識をもって、課題解決を図る生徒の育成」

～協働的な学びを活かした授業を通して～

「見方・考え方」を働かせる生徒の学びと、収束場面における深い学びに至らせるための手立てに焦点を当てた授業を公開します。地域の人口問題をテーマに、当事者意識をもって地域の課題をどう解決していくかを、学び合いを通して考えていきます。

◇月 日：11月2日（火） ◇会場校：津南町立津南中学校

◇公 開：1学級 2年 日本の諸地域「中部地方」 授業者 伊佐 勝

◇指導者：小千谷市立小千谷中学校 校長 若林 靖人

社会〈新潟地区〉

学ぶ必然性のある課題を、
関わり合いを通じて解決し、
深い学びを実現！



新潟市中教研 社会部

研究推進責任者(左) 新潟市立山の下中学校

加藤 真澄

会場校担当(右) 新潟市立石山中学校

佐藤 裕子

こんな深い学びの姿を目指します

- 関わり合う中で、知識を出し合い、相互に関連づけて体系的な知識を構築する。
- 関わり合う中で、課題の解決策を考え、多面的・多角的な見方・考え方を身につける。
- 獲得した知識をもとに、見方・考え方を働かせて意見を創造し、それを自分の言葉で表現する。

深い学びへのステップ

主体的に学びを深め、意見表明できるよう工夫します。

ステップ1

学ぶ意欲を喚起し、学ぶ必然性を感じる学習課題の設定。

ステップ2

共通認識している課題を、関わり合いを通じて解決する。

ステップ3

獲得した知識を精査し、見方・考え方を働かせて、自らの考えを構築し、表現する。

→ステップ設定の理由

課題解決の意欲が持続した状態で協働作業や対話を行えば、様々な考えを積極的に自らに取り入れることができ、課題の解決が可能になります。また、自らの意見の表明は、社会に関わっているという自信となり、主体的に社会の形成を行おうとする意欲や態度につながります。

→ステップのメリット

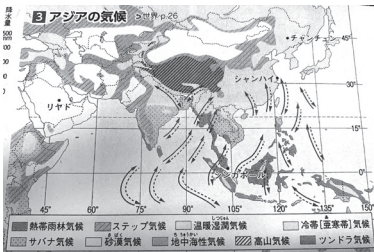
- ① 学ぶ必然性は、意欲を持続させます。
- ② 意見を交流するなかで、知識の関連性を見だして社会事象を深く理解でき、解決策を考えることができます。
- ③ 習得した知識を体系的に理解し、様々な考えと交流すれば、多面的、多角的な意見を創造しやすくなります。

ステップ ①

〇年の大雪は大変だったね。新潟はなぜ、冬に降雪が多いのかな。

冬の日本海側に雪が多く降るのはなぜだろう。

日本の気候とアジア全体の気候は同じなのかな。アジア全体の気候を調べてみよう。



身近な現象にスポットを当てた課題であれば、自分のことととらえることができ、学習意欲が持続します。

ステップ ②

モンスーンが関係あるみたいだね。

なぜ、風向きが変わるのかな。

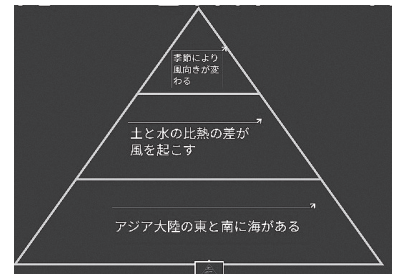
海と陸では、気温の上がり方はどう違うのかな。

内陸つまり海から遠いところは最高気温が高いね。

温かい空気は上に行き、下に空気が流れこむ。つまり風だね。

各自が持つ知識が、関わり合いを通じて、「モンスーン発生メカニズム」という体系的な知識に構築されます。

ステップ ③



より根源的な事実をピラミッドの下に記入させます。

モンスーンの風向きを暗記するだけでなく、発生メカニズムを考え、知ること、知識が定着します。また、課題を解決するときの思考の過程を経験すると見方・考え方が身につきます。さらに、それを記録、発表することで、知識や見方・考え方がより確かなものとなります。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）社会科教育研究発表会

◇研究主題：社会認識を高め、確かな学力を育てるためには、どうあるべきか。

アフリカ州に日本のどの製品が売れるかをアフリカの現状を根拠として予想します。班で意見を交流しながら、ランキングを行うことを通じ、自らの予想の妥当性を検討します。最終的に、自らの意見をまとめ、発表することで、関わり合いの中で獲得した知識や働かせた見方・考え方が、より確かなものになります。

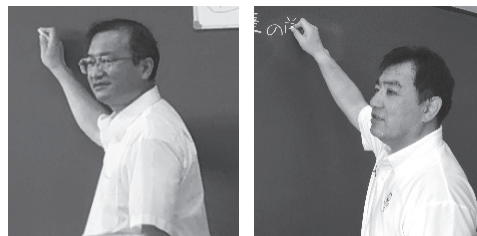
◇月 日：10月28日（木） ◇会場校：新潟市立石山中学校

◇公開：1学級 1年「アフリカ州」 授業者 佐藤 裕子

◇指導者：新潟市立南浜中学校 校長 坂井 孝

社会 〈下越地区〉

単元を貫く課題の解決に向けて、
見方・考え方を働かせて収集・
分析、比較・検討を行う
ことで学びを深めます



五泉市東蒲原郡中教研 社会部

研究推進責任者(左) 五泉市立五泉中学校

五十嵐 嘉啓

会場校担当(右) 五泉市立村松桜中学校

坂田 信夫

こんな深い学びの姿を目指します

「学びを自己の生活や社会の改善に生かそうとする資質・能力を身に付けた生徒」の育成を目指します。生徒にとって切実で魅力のある学習課題に取り組むことで、生徒は見方・考え方を働かせて学習課題に対して自分の考えをもちます。その考えを学級や小グループで交流・批評・意見を述べ合うことでより妥当な解決（最適解，納得解）を図ります。この取り組みを積み重ねることにより、生徒は社会的事象を自分に関係するものとして考えることができるようになっていきます。

深い学びへのステップ

ステップ1

意欲を喚起する「単元を貫く課題」から単元を設計する。

ステップ2

働かせる社会的な見方・考え方を明確にした課題解決学習で授業をデザインする。

ステップ3

課題解決の論拠に繋がる資料提示と学習形態の工夫，思考ツールの活用で学び合いを深める。

➡ステップ設定の理由

生徒が課題に取り組む価値を感じる「単元を貫く課題」を設定することで、学ぶ意欲が喚起されます。単元を貫く課題に迫る小さな課題群に取り組みながら、社会的な見方・考え方を働かせて課題解決をしていくことで、考えが広がったり深まったりします。学習形態・聴き合い、思考を深めるツールの工夫で、主体的・対話的で深い学びが具現化できます。

➡ステップのメリット

- ① 大きな流れの中で毎時間の授業が進み、学習意欲が継続します。
- ② 他と協働しながら課題解決していく資質・能力が身に付きます。

ステップ ①

魅力ある単元課題を設定

生徒が、自分との繋がりや関わりを意識できることから単元を貫く課題を見出し、設定します。地域の未来を担う構成員として、生活や社会を改善していこうとする意識の高まりが生まれます。

単元を貫く学習課題
「五泉市(村松地区)に暮らす住民が、より魅力を感じる町づくりを提言しよう」

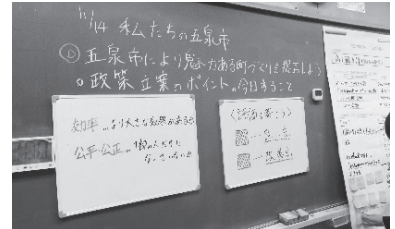
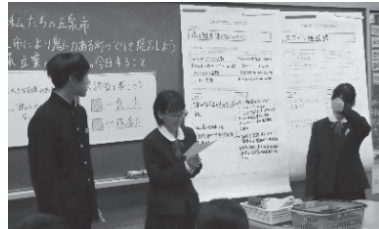
ステップ ②

見方・考え方を明確にした授業デザイン

- 五泉市が抱える問題を財政、少子高齢化の進行、人口減少の面から考える。【**時間経過による変化 背景**】
- 五泉市の行政のしくみと、市役所の各課の仕事を調べる。【**政治の仕組み**】
- 住民の意思を生かす行政のしくみを考える。【**民主主義**】
- それぞれの課で行ったほうがよい政策を考える。【**平等選択 財源の確保配分**】

ステップ ③

資料提示と学習評価の工夫



五泉市に暮らす住民が、より魅力を感じる町づくりを提言します。その為に、論拠を示して意見交換を図ります。【**論拠に繋がる資料提示の工夫**】

「個」→「班活動」→「全体発表」→「個」

学び合いでは、まず自分の考えをもち、意見交換で考えを深め、自分の考えを振り返ります。【**学習形態の工夫**】

I C TやWB等を活用し、効率的に話し合いを進め、学びを深めます。【**思考ツールの活用**】

五泉市の市政の合理的な活動を図るために、合意形成を目指します。【**協働的な学習**】

社会的な見方・考え方を働かせ(検討の視点を明確にして)、意見交換を図ります。

- 実現の可能性を検討し合います。【**効率と公正**】
- 優先順位をつけ、提言をまとめます。【**対立と合意**】

この過程を繰り返すことで、思考が広がっていきます。

指定研究会情報

下越地区(五泉市・東蒲原郡中教研)社会科教育研究発表会

◇研究主題：社会的な見方・考え方を働かせ、課題解決を図る生徒の育成

学習課題設定の工夫と学習形態の工夫を図り、既習事項を基に、自分なりに考えをまとめ、意見交換を通して考えを深めていきます。班や各自の主張は「効率」と「公正」、「対立」と「合意」に基づいた提言を行う授業を予定しています。

◇月 日：10月27日(水) ◇会場校：五泉市立村松桜中学校

◇公開：1学級 3年 「地方自治と住民参加」 授業者 坂田 信夫

◇指導者：県立教育センター 指導主事 後藤 純二

理科

課題設定に配慮し、「見通し」と「振り返り」にも「見方・考え方」を働かせて、深い学びを実現しよう

従来の理科W型モデルでは、問題設定、仮説設定、結論の場面でFTを行い、学びあいを進めることを提案してきました。

これらの場面で理科の「見方・考え方」を働かせることは勿論ですが、探究の過程全体を通じて、「見通し」と「振り返り」を行う場面にも、理科の「見方・考え方」を働かせて、主体的・対話的な学びを進め、深い学びを実現することが大切です。



県中教研 理科部 全県部長
村上市立朝日中学校

校長 木ノ瀬 隆幸

ポイント1

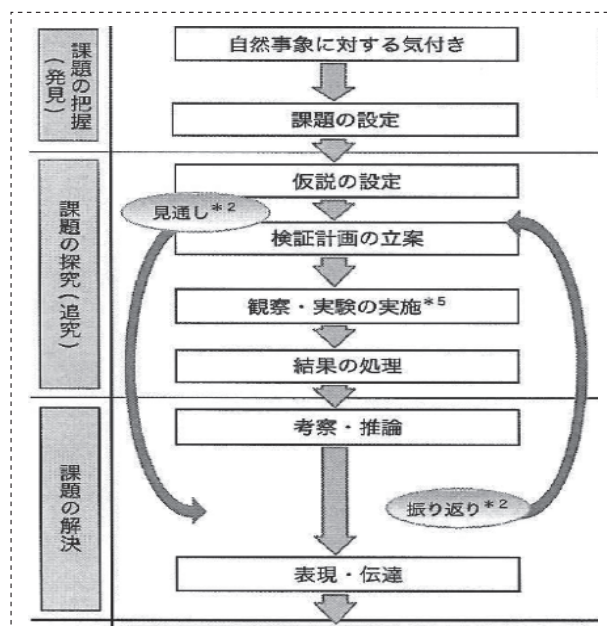
単元導入時の課題設定には、可能な限り単元全体につながるような、生徒発の課題を設定する。

「主体的・対話的で深い学び」の実現には、生徒の「気づき」を引き出し、生徒との対話を通して「課題」という形で、生徒と学習契約を結ぶことが大前提です。その意味で、単元導入時には、事象提示により生徒の素朴概念や既習事項とのズレに気づかせ、単元全体を通して生徒が解決したい課題を設定したいところです。単元を通して解決したい課題が明確になれば、1時間毎に授業が途切れることがなくなり、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために良いスタートを切ることができます。

新学習指導要領理科解説編に、資質・能力を育む探究過程のイメージが右図のように示されました。その中で、学年ごとに重視する学習過程の例として、中学1年生では、事象との出会いにより、課題を見いだすことを、中学2年生では、特に見いだした課題を追究する際に「見通し」をもって解決する方法を立案することを、中学3年生は、1・2年の

実践を踏まえ、一連の探究の過程の中での「見通し」と「振り返り」を大切にすることが提案されています。

どの単元で何を大切にすることを授業者自身が十分に検討して、学習者主体の課題が生まれるような単元構成を意識しましょう。



<引用・参考文献>『中学校学習指導要領解説理科編p.9』

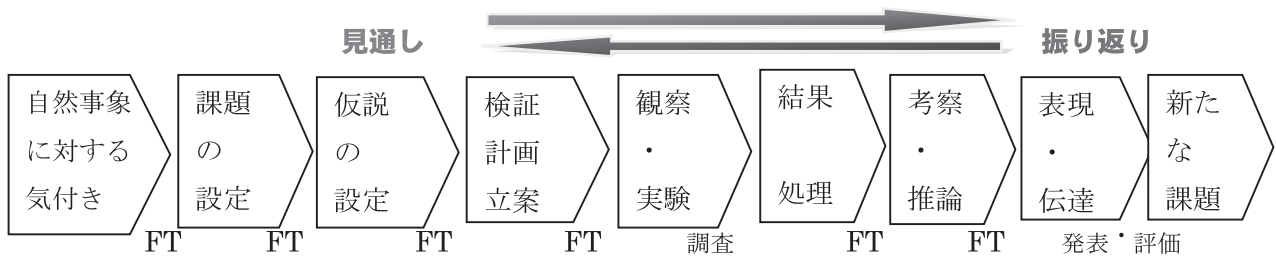
ポイント2

学習過程を可視化し、「見方・考え方」を働かせて、「見通し」と「振り返り」を繰り返す。

観察・実験の予想や考察の場面にFTを行うだけでなく、単元の各場面で理科の「見方・考え方」に基づいた「見通し」と「振り返り」を繰り返し行うことは、生徒の多面的・多角的な学びを促します。それには、個別最適化にもつながる一人一台のICT端末を活用し、自分の考えを記録させたり、振り返りを残したりすることが有効です。また、協働的な学びを促すためにも、理科の「見方・考え方」を明確にして、班単位ホワイトボードや、

ICT機器等を活用して考えを記録します。次に、意見交換を通して多様な考え方の存在に気づかせ、班の意見や他者の考えは自分と何がどのように違うかを意識させます。そして、論点を明確にした話し合いを進めることで、生徒に新たなズレの意識や概念の形成、気づき等が生まれていきます。また、見通しと振り返りを単元全体で何度か繰り返すことで、新たな課題も生まれてきます。

※下図でFTとあるのは、学習指導要領解説理科編の「意見交換・議論」をFTと言い換えたもの。



理科 重点方針

目的意識をもって科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。

- 観察や実験の予想を検討したり、結果を整理し考察・吟味する学習活動の充実を図ることを通して、目的意識に裏打ちされた科学的な思考力、表現力を高める。
- 他者との関わりや問題解決的な活動を展開することを通して、科学的な見方・考え方を育てる。
- 地域の環境や学校の実態を生かした自然体験、科学的な体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。

理科学び合い10

<理科授業スタンダード5>

①	生徒の素朴概念の把握	生徒の素朴概念を把握して、授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	基本操作の充実	観察・実験に必要な操作ができるように支援している。
④	直接体験の重視	直接体験を重視した観察・実験を行なっている。
⑤	日常生活との関連	学習内容を日常生活と関連付けて考えさせる授業をしている。

<理科学び合い5>

⑥	問題意識をもたせる事象提示	感動や驚きを誘発し、単元全体の問題意識を高める事象提示をしている。
⑦	根拠をもとにした予想理由の検討	事象に対し、既習事項と関連付けた予想理由を検討させている。
⑧	仮説を検証する実験方法の工夫	仮説や予想を確かめるための観察・実験方法を考えさせている。
⑨	気付きを大切にされた観察・実験の工夫	生徒の気付きを大切にしながら観察・実験を行わせている。
⑩	結果をもとにした考察の意見交換	観察・実験の結果をもとに結論を導き、生徒同士の意見交換を通して考えを深めさせている。

理科〈上越地区〉

学んだ知識を活用し、
課題解決することで
深い思考の場面を！



上越市中教研 理科部

研究推進責任者(左) 上越市立城北中学校

鬼木 哲人

会場校担当(右) 上越市立直江津中学校

佐藤 智宏

こんな深い学びの姿を目指します

単元の初めに提示された課題に興味・関心をもち、課題を解決するためにどのような知識が必要なのか、見通しをもって学習に取り組みます。さらに、学習した内容がどのように課題解決に活用できるのか整理するなど振り返っていきます。単元の最後には、知識を活かして、生徒同士が考えを比較、整理しながら課題を解決していく姿を目指します。

深い学びへのステップ

“最終課題”に向かって、学習を進めていく

ステップ1

小単元や分野を通した課題（最終課題）を提示する。

ステップ2

課題を解決するために必要な知識を整理するシート（最終課題シート）を活用する。

ステップ3

議論・発表用ボードを活用する。

➡ステップ設定の理由

学び合う生徒の理想の姿に近づくためには、学習意欲の向上、思考力・表現力を高めることが必要であると考えました。そのために、意欲を引き出す課題を設定、また、見通しをもって学んだ知識を活用したり、振り返りを充実させ、自分の思考の道筋（考え）を自覚したりできるように「最終課題シート」を活用します。

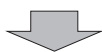
➡ステップのメリット

- ① 興味・関心を引く学習課題で生徒の学習意欲を高めます。
- ② 課題を最初に示すことで見通しをもって学習することができます。

ステップ ①



最終的に解決する課題を小単元の最初に示します。



その課題を解決するために必要な知識(内容)を考え、見通しをもって学習することができます。

生徒が解決したいと思うような課題にすることで、目的意識を高めて、意欲的に学習することができます。

ステップ ②

小単元を通した課題を解決するために必要な手立てを生徒に考えさせたり、示したりします。それらを1枚のシートに整理していき、学習に見通しをもてるようにします。

最終課題シート

最終課題 ワインでフランベするには…

1年組 番号前

①ワインの主成分の沸点は？

②気体になった水やエタノールを液体にもどす方法は？

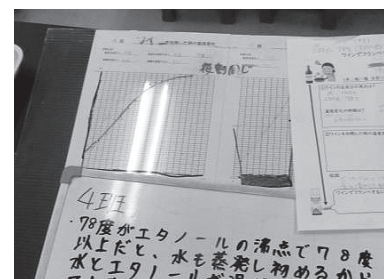
ワインでフランベするには、

授業では、学習で分かったことをそのシートに記入していき、課題に取り組む際に学習した内容を活用できるようにします。

ステップ ③

生徒が自分の考えを説明したり、他者の考えと自分の考えを比較、整理し、適切な考えを導いたりしやすくするため、プラスチック製の段ボールとPETシートで作った「議論・発表用ボード」を活用します。

ボードはプラスチック製の段ボールとPETシートの間にA2サイズの紙を挟み込むことで記入した考えがよく見えます。また、マーカーペンで書いたり、消したりできます。そのため、班で考えを整理する場面で有効に活用できます。



指定研究会情報

上越地区（上越市中教研）理科教育研究発表会

◇研究主題：見通しと振り返りを大切にした思考力・表現力を高める指導の工夫

小単元の最初に最終課題を示すことで、見通しをもってその解決に向けた学習に取り組めるようにします。本時では、身のまわりの物質を組み合わせることで発生する気体の同定を行います。生徒たち自身で計画を立てて実験し、既習事項を生かして考察していきます。

◇月 日：11月17日(木) ◇会場校：上越市立直江津中学校

◇公開：1学級 1年 「発生した気体の正体は？」 授業者 佐藤 智宏

◇指導者：上越教育事務所 学校支援第2課長 藤本 高雄

上越市立教育センター 指導主事 品田 やよい

理科 〈中越地区〉

「既習事項の活用」を大切にした 学習活動で知識をつなぎ、 学びを深めます！



加茂・南蒲中教研 理科部

研究推進責任者(左) 加茂市立若宮中学校

白井 明日華

会場校担当(右) 加茂市立加茂中学校

今井 友之

こんな深い学びの姿を目指します

- 既習事項をもとにして、新しい学びを獲得する姿
- 課題に対して、共通点や相違点を視点に比較し、その思考の過程を他者に伝えようとする姿
- 理科での学びや知識を実生活につなぎ、活用しようとする姿

深い学びへのステップ

「既習事項の活用」を促すために

ステップ1

単元構成を工夫する。

【既習事項を使いやすくするための工夫】

ステップ2

別単元や単元内の知識をつなぐために、ポートフォリオ等を活用する。

【既習事項を使いやすくするための工夫】

ステップ3

科学的根拠を分かりやすく伝えるために、ICTやモデルを活用する。

【自分の思考過程を表現するための工夫】

→ステップ設定の理由

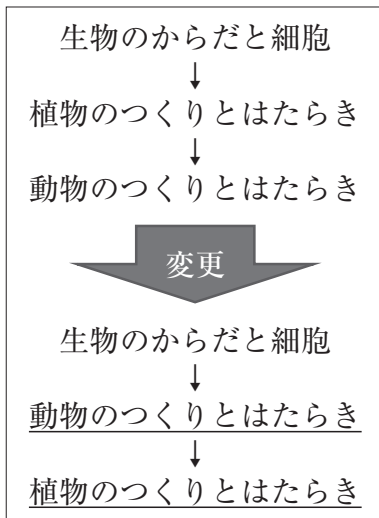
科学的な根拠を示して考えることが苦手で、予想や結論を「何となく…」とする生徒が多く、自ら考えを述べる生徒が固定化されている、という実態があります。

そこで、深い学びの実現のために、「知識をつなぐ」ことを大切にし、生徒全員が自信をもって主体的に取り組み、伝えることができるようにしたいと考えました。

→ステップのメリット

- ① 「既習事項の活用」を通して学習活動を行うことにより、自らの考えを広げたり、強化・修正したりして、学びが深まります。
- ② 表現活動を充実させることで、学びの深まりや自己の高まりを実感し、新たな学びへの意欲につながります。

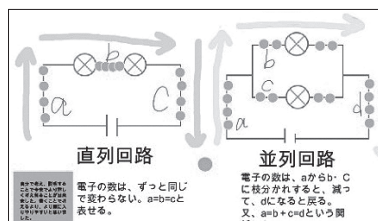
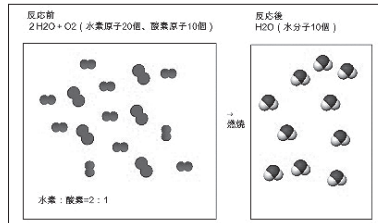
ステップ ①



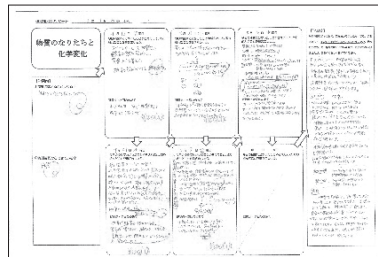
本研究では、「動植物の生きるしくみ」の単元構成において、「第2章 植物のつくりとはたらき」と「第3章 動物のつくりとはたらき」を入れ換えます。

「細胞呼吸」を単元のキーワードに、生徒がイメージをしやすい、動物の生命を維持するしくみについて学習した後に植物を学習することにより、動植物の生命を維持するしくみについて深く関連付けて学習することができます。

ステップ ②

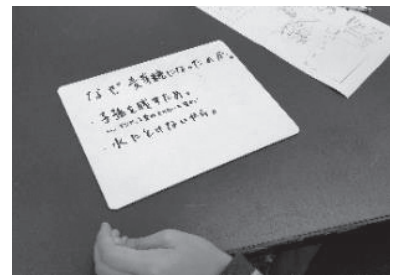


「粒子概念」により、単元どうしをつなぎます。



「ポートフォリオ」により、単元内の自己の学びをつなぎます。

ステップ ③



身に付けた知識・技能を使って、日常生活の事物・現象を提示する場面や、観察、実験で得た結果の整理、考察の場面で、ICTやモデルを活用した表現活動を取り入れるなど、生徒の思考・表現が深まるような場面を設定します。

その際、特に科学的根拠を意識させます。本研究における科学的根拠は①既習の知識、②実験データ、③実生活での経験としました。

指定研究会情報

中越地区（加茂・南蒲中教研）理科教育研究発表会

◇研究主題：知識をつなぎ、思考・表現を深める生徒の育成
～「既習事項の活用」を通して～

動植物の生きるしくみについて、単元を通して動物と植物のからだのはたらきについて相互に関連付けながら学習に取り組みます。本時では、葉で作られたデンプンがその後どうなるのかについて、個人で立てた仮説を検証しながら動物や植物が生命を維持するしくみについて考えを深めていきます。

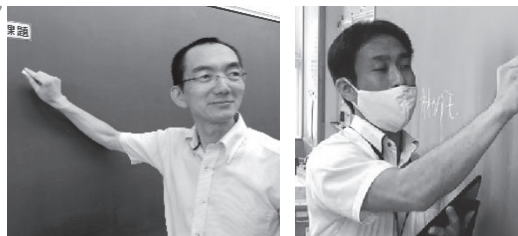
◇月 日：11月9日（火） ◇会場校：加茂市立加茂中学校

◇公 開：1学級 2年 「動植物の生きるしくみ」 授業者 今井 友之

◇指導者：中越教育事務所 学校支援第2課・指導主事 羽鳥 益実

理科〈新潟地区〉

「だから、こう動くのだろう」 立体モデルで説明できる 生徒の育成



新潟市中教研 理科部

研究推進責任者(左) 新潟市立藤見中学校

間 英法

会場校担当(右) 新潟市立新津第一中学校

小松 健治

こんな深い学びの姿を目指します

- 実験装置を自由に使いこなす姿
- 見方・考え方を働かせながら、実験結果を分析・解釈し、立体モデルで自分の考えを説明できる姿
- 学習用端末を使い、自分の学びを広げる姿

深い学びへのステップ

電流・磁界・力の3つの向きを表現した立体モデルの作成と活用を通して、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。

ステップ1

生じる力の向きを自由に変えられる実験装置を用いる。

ステップ2

電流・磁界・力の3つを表した立体モデルを作成する。

ステップ3

他者との交流場面を設定し、空間認識のずれを解消させる。

→ステップ設定の理由

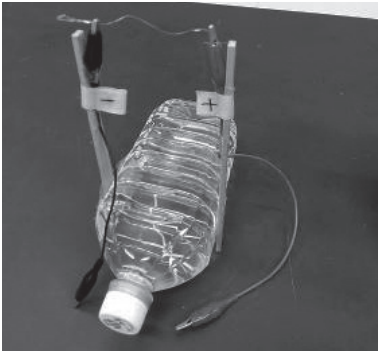
「学び合い10」に基づく授業づくりを行うことにしました。「①生徒の素朴概念の把握」「③基本操作の充実」「⑩結果をもとにした考察の意見交換」を、特に重視した授業を行っていきます。

検証操作が容易な実験器具、目で見えない電流・磁界・力を可視化できる立体モデルを使用し、自分の考えを説明する授業を展開します。

→ステップのメリット

- ① 実験装置を工夫し、多くの事例をつくり出すことができます。
- ② 立体モデルを使用した意見交流場面で規則性を見いだせます。

ステップ ①

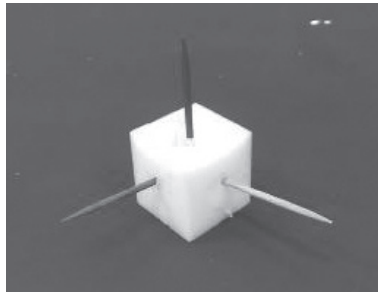


学習課題を「電流の向き、磁界の向き、力の向きにはどんな関係があるか」と提示します。その解決のために、操作が容易な実験装置を用います。

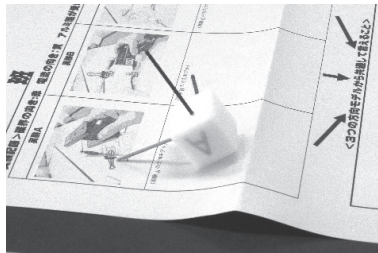


この実験器具を使うと、「電流の向き」「磁界の向き」「受ける力の向き」を簡単に変えることができます。

ステップ ②



ステップ1の実験装置での「電流の向き」「磁界の向き」「受ける力の向き」をモデル化します。スポンジにつまようじを刺し、「電流の向き」を青色、「磁界の向き」を赤色「受ける力の向き」を緑色で表し、立体的に可視化します。

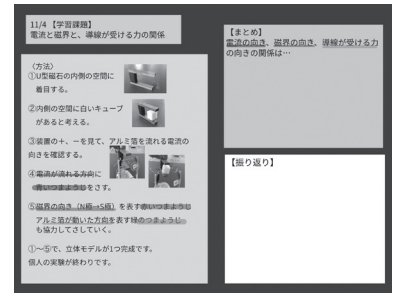


ステップ ③



どのように条件を変えても、立体モデルが同一になります。班内、クラス内の意見交流で「電流の向き」「磁界の向き」「受ける力の向き」の規則性を確認できます。

タブレット端末を使用し、自分の考えを発表する交流場面を設けます。



指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）新潟市教育研究発表会

◇研究主題：学び合いを通して、科学的な思考力・判断力・表現力を高める
理科指導の工夫

立体モデルを作成する活動によって、空間概念が捉えにくい「磁界の向き」「電流の向き」「受ける力の向き」の3つの要素の関係を適切に説明する生徒の育成を目指す授業を行います。今年度、当日の公開はZoom配信にて行います。

◇月 日：11月4日（木） ◇会場校：新潟市立新津第一中学校

◇公 開：1学級 2年 「電流と磁界」 授業者 小松 健治

◇指導者：新潟市教育委員会 指導主事 庭田 茂範

理科 〈下越地区〉

「何でだろう？」を自分たちで 解決する生徒の姿を 目指します！



村上市岩船郡中教研 理科部

研究推進責任者(左) 村上市立村上第一中学校

長谷川 智大

会場校担当(右) 村上市立岩船中学校

水澤 和雅

こんな深い学びの姿を目指します

ツール（ICTツールや思考ツール等）を有効に活用することで、生徒が見方・考え方を働かせながら予想や根拠をもとに仮説を立てて実験を行うことや、実験・分析・解釈などの場面において学び合いながら考察を導出することなどを通して、授業後に「何を学んだのか」「何が分かるようになったのか」を実感し、自ら進んで次の探究へ向かう生徒の姿を目指します。

深い学びへのステップ

“何でだろう”を自ら進んで探究するようになる

ステップ1

導入における事象との出会いを工夫する。

ステップ2

ツール（ICTツール・思考ツール等）を活用する。

ステップ3

「見通し」と「振り返り」を大切に
する。

⇒ステップ設定の理由

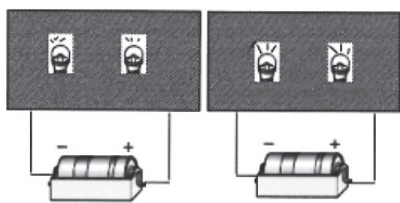
主体的・対話的で深い学びの実現には、生徒自身に見方・考え方を働かせることが大切である。そこで、導入において「既有知・経験知とのズレ」や「事象との対話」を生むような事象提示を行ったり、考えを整理または可視化するためにツールを活用したり、生徒のメタ認知的活動を促すような見通しと振り返りを探究の過程において繰り返したりすることが有効なのではないかと考えた。

⇒ステップのメリット

- ① 生徒の主体的な学びにつながるとともに生徒が探究の過程において見方・考え方を正しく働かせられるようになります。
- ② 効果的な学び合いにより理解が深まり、自ら新たな探究へ進むようになります。

ステップ ①

導入における事象提示を工夫します。既有知・経験知とのズレが生じたり、事象との対話が生まれたりすることで、生徒が見方・考え方を働かせる契機となるとともに生徒の主体的な学びにつながるような事象提示を行います。

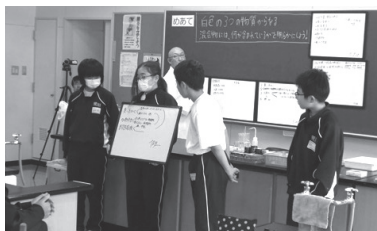
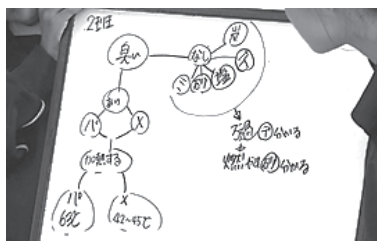


「電流とそのはたらき」の単元では、同じ乾電池と同じ豆電球を用いた2つの回路において、両者の豆電球の明るさが異なるという事象提示を行います。

「同じ明るさになるはず」という生徒の既有知・経験知とのズレを問うとともに回路の一部を隠すことによって事象との対話を生徒に促します。

ステップ ②

ツール(思考ツールやICTツール)を活用して思考を整理したり可視化したりします。それによって新たな視点に気付くことができたり、他者と共有することで互いに見方・考え方のズレに気付いて修正したりすることができます。



指定1年目の研究会では樹形図とホワイトボードを用いて生徒の思考を整理するとともに可視化して共有を図りました。

本研究会では「Jambord」を用いる予定です。

ステップ ③

一連の探究の過程において「見通し」と「振り返り」の場面を設定します。

ステップ1, 2での見方・考え方に基づいた見通しをもった仮説の設定を行ったり、授業の終わりにメタ認知的活動を促す振り返りを行ったりします。

単元全体で何度も繰り返すことで、見方・考え方を働かせながら探究の過程を経る深い学びにつながるとともに、獲得した資質・能力に支えられた見方・考え方を次の学習場面等でも働かせようとする主体的な学びにもつながります。

本研究会では特に、生徒自身が「何を学んだのか」「何が分かるようになったのか」などを自覚できるように振り返りを設定し、それを次の学習へ生かそうと自ら進んで次の探究へ向かう生徒の姿を目指します。

指定研究会情報

下越地区(村上市岩船郡中教研)理科教育研究発表会

◇研究主題：生徒の主体性を育む、学び合う授業の創造

直列・並列回路の違いによる電圧の規則性について考えます。豆電球を用いた事象提示から「何だろうか?」と関心をもち、ICTツールを活用して思考を可視化しながら他と意見交換する活動を通し、見通しのある課題解決学習を進めていきます。

◇月 日：11月11日(木) ◇会場校：村上市立岩船中学校

◇公開：1学級 2年 「電流とそのはたらき」 授業者 水澤 和雅

◇指導者：下越教育事務所学校支援第2課 指導主事 平山 裕也

英語

生徒に「目指す深い学びの姿」を実現する授業づくりを！

英語で目指す深い学びの姿は、英語によるコミュニケーションにおいて、その目的や場面、状況等に応じて、既存の知識と新たに学んだ知識を結び付けて、その場で思考、判断、表現しようとする姿です。

生徒にその姿を実現する授業づくりのポイントを2つ紹介します。



県中教研 英語部 全県部長
妙高市立妙高高原中学校
校長 重野 準司

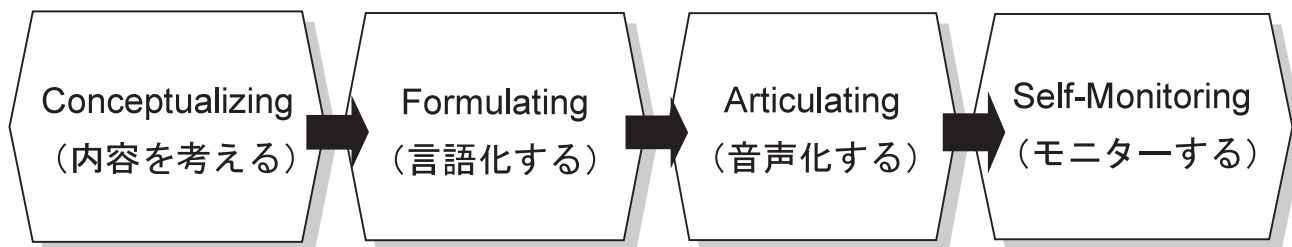
ポイント1 今ある言語活動に「目的や場面、状況」を入れる

スピーキングについて、そのメカニズムは「内容を考える」⇒「言語化する」⇒「音声化する」⇒「モニターする」の4つの段階があります。生徒は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況が与えられると、まず、何を話そうか考えます。そして、それを英語で伝えるにはどのような表現を用いたらいいか言語化を行い、声に出して相手に伝えま

す。最後に、言いたかったことがうまく相手に伝わったかどうか確認します。この一連の流れを瞬時に行うのがスピーキングです。

目的や場面、状況のある言語活動では、必然的に最初の段階（内容を考える）が可能になり、生徒は必要な見方・考え方を働かせ、英語表現を選択するようになります。

【スピーキングのメカニズム】



※ Formulating = Grammatical and Phonological Encoding

<引用・参考文献> 「Speaking : From Intention to Articulation」 Levelt. W. J. M. (1989) Cambridge

「4 達人に学ぶ！究極の英語授業づくり&活動アイデア」瀧沢広人他 (2020) 明治図書

ポイント2 アウトプット重視の教科書指導(リテリング)を実施する

リテリングを成功させるためには、まずは本文の内容をよく理解し、音読によって本文の言語材料を内在化させることが必要です。次に、本文の要点だけを発話するのか、または、細部情報も発話するのかという発話情報を選定します。さらに、自身の英語力に応じて、リプロダクション(本文と同じ、または、ほぼ同じ言語形式での再生)を目指すのか、

リテリング(本文の言語形式を自分の言葉で言い換える)を目指すのかを考えます。最後は、それを正確に発話できるかです。

リテリングは、教科書の本文学習のまとめの言語活動として、最近ではiPad等のICTを用いて聞き手にイメージ画像等を示しながら行う活動としても注目を集めています。

【リテリングを取り入れた指導モデル】

形式重視		形式+意味重視	意味重視
インテイク	アウトプット1	アウトプット2	アウトプット3
内在化	再生	再生+産出	産出
音読	リプロダクション	リテリング	自己表現

認知負荷が低い ←————→ 認知負荷が高い

<引用・参考文献> 「リテリングを活用した英語指導」 佐々木啓成 (2020) 大修館書店

英語 重点方針

学習指導要領(外国語)の趣旨を正しく理解し、その目標を実現する取組を着実に推進する中で、適切な言語活動を通して、英語で目指す資質・能力を確実に育成する。

- CAN-DOリストから単元の学習到達目標を設定・共有し、どの生徒も無理なく目標に迫ることができるように指導内容をバックワードで配列して行う指導を徹底する。
- 学習指導要領に示されている4技能5領域における言語活動例を視点に、折に触れて自校の指導の現状をチェックし、領域に偏りが無いようバランスよく指導する。
- 即興的な表現力を育む言語活動を継続的に授業に位置づけ、進歩を実感させながら生徒の主体性や学習意欲を維持・増進させ、自立して学び続ける生徒を育成する。

英語 学び合い10

①	学習集団	安心して自己開示できる支持的風土のある学習集団を作っている。
②	帯活動	即興的な言語活動等を帯活動に位置づけ、継続的に指導している。
③	指導と評価の一体化	単元単位で到達目標を設定し、逆向き設計で指導し、評価している。
④	教科書指導	アウトプット重視の教科書指導で、使える語彙や表現の幅を広げている。
⑤	言語活動	言語活動にコミュニケーションを行う目的、場面、状況を入れている。
⑥	学び合い	言語活動の合間等に生徒に時間を預け、生徒の協働を通じてうまく表現できなかったことが表現できるようになる手立てを講じている。
⑦	正確さと流暢さ	両者のバランスを踏まえ、一体的な育成を意識して指導している。
⑧	1人1台端末	即興的な言語活動等、毎時間のようにタブレット端末を活用している。
⑨	5領域のバランス	統合型言語活動の導入等、指導領域が偏らないように意識している。
⑩	目標と振り返り	学習到達目標に照らして、自身の状況を振り返る機会を設けている。

英語 〈上越地区〉

自分の考えや思いを伝える生徒の育成 ～4技能5領域のバランス が取れた言語活動の実践～



柏崎市刈羽郡中教研 英語教育研究部

研究推進責任者(左) 柏崎市立東中学校 千原 健志

会場校担当(右) 柏崎市立瑞穂中学校 藤巻 洋生

こんな深い学びの姿を目指します

新しい指導要領では、即興的な英語表現力が求められています。そのためには、目的や場面を明確にし、相手意識をもたせ、その場に適した表現を繰り返し練習する必要があります。柏崎市刈羽郡英語研究部では、各校のCAN-DOリストに基づいたルーブリックを生徒と共有し、パラレルな教材を活用する指導を目指しています。そして4技能5領域のバランスの取れた力を育み、自分の考えや思いを伝える生徒の姿を目指します。

深い学びへのステップ

ステップ1：学習・指導・評価の一体化

CAN-DOリストを基に作成したりフレクションシートを活用して、見通しをもって学ぶ生徒を育てる。

ステップ2：5領域のバランスの取れた活動

帯活動やタブレットPC使用、リテリングなど教科書の言語活動も活用し、4技能5領域のバランスの取れた言語活動に計画的に取り組む。

ステップ3：教科書とパラレルな言語活動

教科書と内容的にあるいは構造的にパラレルな教材を用いて、4技能5領域のバランスの取れた言語活動を計画的に継続する。

→ステップ設定の理由

英語は言うまでもなく言葉を使えるようにする教科書です。そのためには、即興的な言語活動だけでなく、基礎的なスキルを向上する機会も保障する必要があります。

また指導(=学習、評価)計画を生徒と共有し、生徒と教員が協働して目指す姿に近づくことが私たちの目的です。

→ステップのメリット

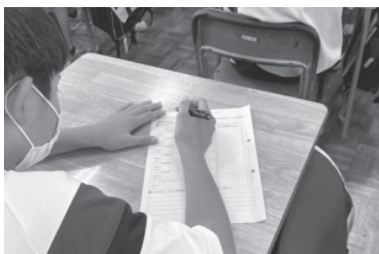
- ① 生徒同士、生徒と教員がベクトルをそろえて英語を学ぶことにつながります。
- ② 地域の教員が協働して指導計画や教材を作ることで、ともに伸びる地域の教育を実現できます。

ステップ ①



各校のCAN-DOリストとルーブリックを基に単元ごとにリフレクションシートを作成します。

生徒と見通しを持った学びを共有できます。



学習のまとめりごとにリフレクションシートに学びを振り返ります。

できるようになったこと、さらに学びたいことを明らかにし、学びに向かう姿勢を育みます。

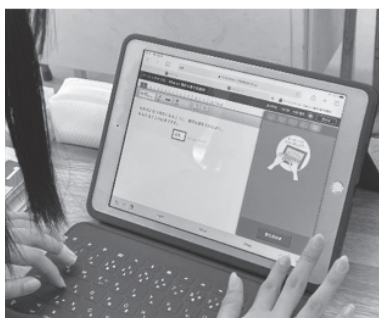
ステップ ②

基礎的な表現を帯活動で定着させます。

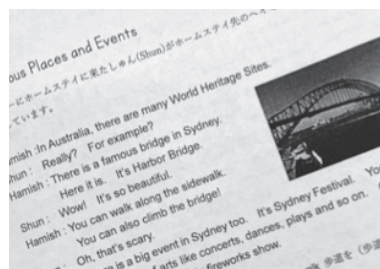
即興的な表現につなげる大切なプロセスです。



基本的な文法はタブレットPCを使って定着させます。教師は個別の学びを見取り、それぞれの課題をアドバイスします。



ステップ ③



教科書の題材とパラレルな教材を作成します。

「対話する」「発表する」「読む」「書く」「聞く」をバランスよく実施できるよう郡市の英語部会で協力して作成します。



授業で活用し、インプットを増やし、即興的な表現力につなげる言語活動を計画的に継続します。

指定研究会情報

上越地区（柏崎市刈羽郡中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：自分の考えや思いを伝える生徒の育成

～4技能5領域のバランスが取れた言語活動の実践～

4技能5領域の伸長に向けて、よりよい活動の在り方を、帯学習やパラレルな教材の使用から提案します。これらの活動を継続していくことによって、自分の考えや思いを伝えることができる生徒の育成を目指します。

◇月 日：11月24日(水)

◇会場校：柏崎市立瑞穂中学校

◇公開：1学級 1年「PROGRAM 7」授業者 藤巻 洋生

◇指導者：中越教育事務所 指導主事 川田 昌宏

英語 〈中越地区〉

目指せ！ 即興的なやりとり 育てよう！ アクティブ イングリッシュラーナー



長岡市中教研 英語部

研究推進責任者(左) 長岡市立東北中学校 相田 一樹

会場校担当(右) 長岡市立関原中学校 渡邊 直樹

こんな深い学びの姿を目指します

「こう言いたいが、言えなかった」というジレンマを自己解決し、相手の立場・気持ちを受け止めながら、自分の考えを積極的、かつ即興で伝えることができる生徒を育成します。

既習の知識及び技能や新たに学んだ知識をフル動員しながら、新たな場面で適切な言語材料を思考・判断しながら表現し、振り返って更なる改善につなぐサイクルを継続していこうとする姿を目指します。

深い学びへのステップ

これまでの学んだ表現を使って、新しい対話場面でも即興かつ自然に活用できる力を付けさせたいという願いがあります。そのために以下の手立てを提案します。

ステップ1

即興で伝え合う活動を帯活動に位置付け、繰り返し、粘り強く指導をします。

ステップ2

会話を継続・発展させるための双方向会話（Interactive talk）を活動中に取り入れます。

ステップ3

表現を機能毎に精緻化し、まとめた表現集を活用します。

→ステップ設定の理由

やりとりを重視した活動が広まりつつある一方で、情報や考えを即興でやり取りすることが難しい生徒が多いという課題があります。

即興力を育成する活動を継続的に行う中で、左の手立てを行うことには次の2つのメリットがあります。

→ステップのメリット

- ① 会話の復習→目標立て→新たな実践→振り返り のサイクルの中で、生徒の表現力が段階的に高まっていくはずです。
- ② 生徒が学習した曖昧な知識を洗練したり、断片的な知識をまとめたりすることが、生涯にわたって活用可能な英語力に繋がっていくはずです。

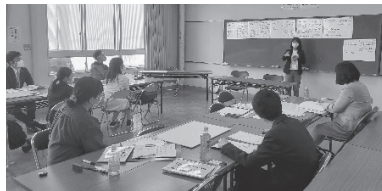
ステップ ①

即興で伝え合う活動を帯活動に位置付け、以下の流れを組み込んで、繰り返し指導を行います。

- ① これまでに行った会話を復習する。
- ② 復習を活かして、新しい会話場面での内容を考え、表現する。
- ③ より深い内容の会話を目指して、状況・場面の転換を行う。
- ④ 会話を繰り返す中（後）で、内容の深化の度合いと即興性について振り返る。

表現内容の深化や即興性の高まりを促すために、活動の途中で状況・場面の転換を行います。その都度、生徒は瞬時に内容を変え、会話を継続します。

振り返りの中（後）で、自らの即興性の進歩について自己評価を行います。



ステップ ②

即興で伝え合う力を高めるためには、相手の発話の内容を踏まえて、それに関連した質問や意見を述べながら会話を継続することが大切です。そのために以下のような流れのInteractive Talk(双方向会話)を授業の中で取り入れます。

- ① いきなり質問をするのではなく、教師によるスモールトークから始める。
- ② 生徒に話題の投げ掛けや発問を行う。
- ③ 生徒→教師、生徒1→生徒2、生徒2→生徒3のやりとりを行う。
- ④ 「会話を継続・発展させる方法」についての気付きや確認を促す。
- ⑤ 同じトピックでペアを替えたやりとりを何度となく行う。

教師が生徒とのやり取りを楽しみ、意味のある言葉のやり取りを十分に聞かせることが重要です。あいさつや、新出文法の導入、帯活動での中間評価などの場面で取り入れます。

ステップ ③

思考力・判断力・表現力の実態は知識の状態(ありよう)であると考えます。

生徒が既習の膨大な量の知識を、さまざまな状況や文脈と結び付け、必要に応じて自在に繰り出すことができるように、以下のように表現をその機能毎にelaboration(精緻化)した表現集を活用します。

Let's talk and use! ④ 会話で便利な表現集

No.	category	English	Japanese	level
1	何かの紹介の出し	I will talk about ~	~について話します。	
2	何かの紹介の出し	Let me tell you about ~	~について紹介します。	
3	趣味を伝える	~ing is my hobby.	~することは私の趣味です。	
4	趣味を伝える	To ~ is my hobby.	~することは私の趣味です。	
5	趣味を伝える	My hobby is ~ing.	私の趣味は~することです。	
6	趣味を伝える	My hobby is to ~.	私の趣味は~することです。	
7	好きなことを伝える	I like ~ the best.	~が一番好きです。	
8	好きなことを伝える	I like to ~.	~することが好きです。(不完全)	
9	好きなことを伝える	I like ~ing.	~することが好きです。(完全)	
10	好きなことを伝える	My favorite~ is	私の好きな~は、~です。	
11	自分の考えを伝える	I think that ~.	私は~と思っています	
12	自分の考えを伝える	I'm sure that ~	きっと~だよ	
13	自分の考えを伝える	I mean ~	(本音に)~と思っているよ	
14	会話を広げる	How was it?	それどうだった?	
15	会話を広げる	Please tell me more about it?	それについてもっと教えて	
16	会話を広げる	What's your favorite ~?	あなたの好きな~は何?	
17	会話を広げる	How about you?	あなたはどうか?	
18	会話を広げる	Why?	なぜ?	
19	会話を広げる	Why not?	なぜ?	
20	会話を広げる	What was it like?	どんなだった?	
21	質問をしていいか尋ねる	Can I ask you?	聞いてもいいですか。	
22	質問をしていいか尋ねる	I have a question.	質問があります。	

アクティブラーナーを育成するためには、自ら表現を「調べ」、「紹介し合い」、「共有・蓄積する」などの手段も有効です。

指定研究会情報

中越地区（三島郡・長岡市中教研）英語教育研究協議会

◇研究主題：即興力の育成

～既習事項を実際の使用につなげる統合的な活動の工夫～

今年度は授業公開を行わずに、上記の3つのステップを踏まえた実践例をYouTubeで公開します。協議会への参加希望者や資料の閲覧希望者は中教研のホームページを御覧ください。

◇月 日：11月26日(金) ◇会場校：長岡市立関原中学校

◇公 開：1学級 3年 「ALTへの即興インタビュー活動に向けた取組」

授業者 渡邊 直樹

◇指導者：長岡市教育委員会 指導主事 星野 和子

英語 〈新潟地区〉

目的・場面・状況を明確にした単元の ゴールを共有し、深い学びを目指す ～チーム新潟市の取組～



新潟市中教研 英語部

研究推進責任者(左) 新潟市立新津第二中学校

小田 久美子

会場校担当(右) 新潟市立潟東中学校

保倉 裕治

こんな深い学びの姿を目指します

単元を通したゴールの姿を、生徒と教師が共有し、そのゴールに向かって生徒同士が学び合う授業づくりを目指します。振り返りシートやICTの活用、単元のゴールの設定など、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて生徒が主体的に学び合う姿を目指します。生徒同士が意見を交換したり共有したりすることにより、新たな気付きが生まれます。新潟市中教研では、生徒がお互いに深く学び合う姿を目指します。

深い学びへのステップ

“単元を通したゴール”を目指して
学び合う

ステップ1

明確な目的・場面・状況の設定

ステップ2

単元を通したゴールの共有

ステップ3

自己を振り返る「振り返りシート」、
考え方や表現の仕方を共有し、より深い
学びに向かうためのICTの活用

➡ステップ設定の理由

単元末に何ができるようになり、英語を使って何を表現するのか、というゴールを、生徒と教師が共有していくことにより、生徒の意識が大きく変わります。

そのためには、目的・場面・状況を明確にして指導にあたる必要があります。深い学びの実現のために、「単元を通したゴールを生徒と教師が共有する」ことには、次の2つのメリットがあります。

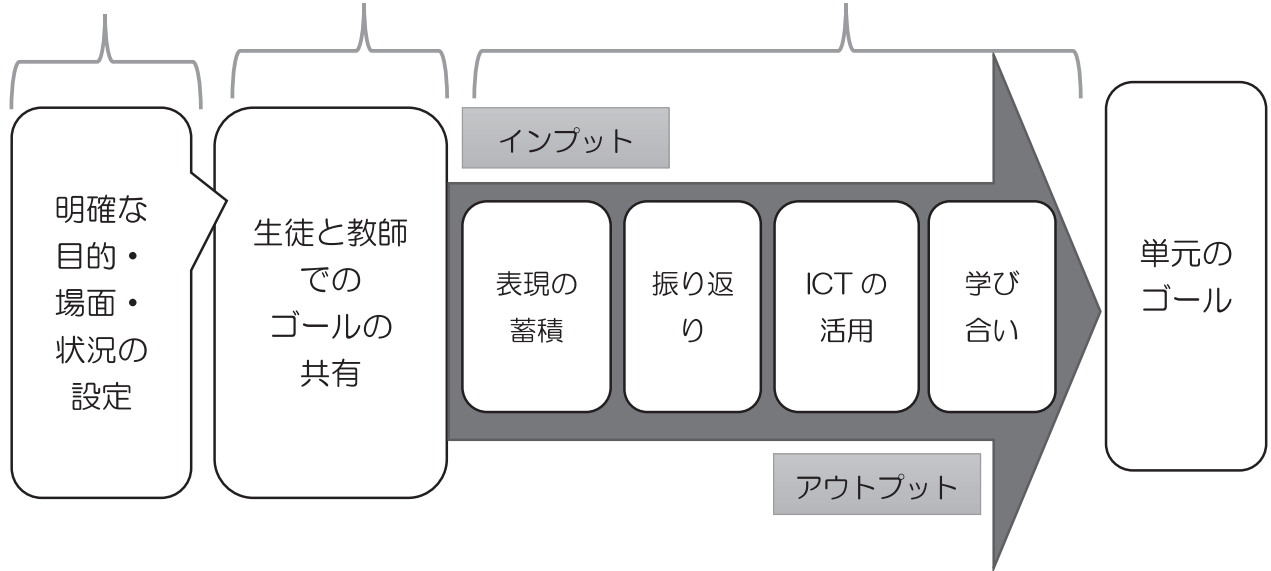
➡ステップのメリット

- ① 単元のゴールを設定し共有することにより、生徒の目的意識が明確になります。
- ② コミュニケーションの目的・場面・状況を明らかにすることにより、より現実的で目的意識をもって活動に取り組むことができます。

ステップ ①

ステップ ②

ステップ ③



「何のために」「どんな場面で」「こんな状況になったら」と、目的・場面・状況を明確に設定することによってこそ、生徒の「主体的な学び」が生まれます。単元を貫く課題設定を明確にします。



単元のゴールを共有します。最終ゴールが明確であるため、生徒は最後まで目的意識をもって活動に取り組めます。



最終的な単元のゴールに向けて、表現を蓄積するインプットの段階から最終ゴールのアウトプットの段階まで、目的をもって活動します。振り返りシートや、ICTを効果的に活用することにより、学びを深めます。



指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：主体的に学び合い、4技能5領域をバランスよく高めていく生徒
～評価材料共有による単元を通した指導を通して～

今年度は、WEBでの研究発表会となります。単元のゴールに向かって、ICTを効果的に活用しながら、生徒がスピーチを作成したり、発表の練習に取り組んだりする授業を提案します。今年度、新潟市中教研として取り組んできた共有資料を、実際の授業でどのように活用していくことができるのか、についての発表を予定しています。

◇月 日：11月4日（木） ◇会場校：WEBによる研究発表会

◇公 開：新潟市立潟東中学校 2年1学級公開 授業者 保倉 裕治

◇協力校：新潟市立山潟中学校 3年2学級公開 授業者 渡邊 慶子、若槻 理恵

◇指導者：新潟市教育委員会学校支援課 指導主事 中川 久幸
新潟市総合教育センター 指導主事 小林 英男

英語 〈下越地区〉

積極的に英語を用いて コミュニケーションを 図る生徒の育成



五泉市・東蒲原郡中教研 英語部

研究推進責任者(左) 阿賀町立三川中学校 中川 孝嘉
会場校担当(右) 五泉市立五泉中学校 井上 和徳

こんな深い学びの姿を目指します

新学習指導要領では、特に即興での英語による表現力の育成が求められています。コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて見方・考え方を働かせながら表現することが、生徒に求められます。生徒が相手の様子に配慮しながら、既存の知識と新たに学んだ知識を結びつけて、適切な英語表現でやり取りを続けられる、そんな姿を目指します。

深い学びへのステップ

ステップ1

生徒が単元の見通しをもって活動するため、ループリック（評価基準を生徒と共有）を活用し、バックワードデザイン（逆向き設計）による授業を実践する。

ステップ2

生徒が既習事項の復習や即興的に英語で伝え合う力を身に付けるために、帯活動を継続して行う。

ステップ3

コミュニケーションを行う相手の立場や文化的背景を理解し、目的や場面、状況に応じた言語活動を行う。

➡ステップ設定の理由

生徒が見通しをもって単元のゴールに向かって活動し、振り返りを行うことで主体的な学びにつながります。帯活動で生徒の相互作用によって即興的に表現する力を高め、対話的な学びにつながります。その学びをアウトプットする言語活動を行い、深い学びを実現するために、ステップを設定しました。

この取組を行うことには、次の2つのメリットがあります。

➡ステップのメリット

- ① 「生徒には、間違いを恐れず、英語で気持ちや考えを表現させたい」という教師の願いを具現化できます。
- ② 成績や進路のためだけの学びでなく、実際に英語を用いて主体的に他と関わろうとする生徒を育成できます。

ステップ ①

単元のCAN-DOを教師と生徒が共有することで、生徒が単元の学習後に何ができるようになるかを想像します。

Lesson5 I Have a Dream 単元 Can Do List この単元でできるようになること
GET POINTS 知識・技能 関係代名詞目的格と後置修飾(名詞を修飾する文)
USE READ 読むこと マーチン・ルーサーキング・ジュニアの物語を何をしたらよいかを考えることができる。
USE WRITE 書くこと ALTや友だち、家族をイベントに招待する「招待状」

学習課題の評価基準を明確にすることで、何をどこまでできればよいかを理解することができます。

Rubric(ルーブリック): Writing(書くこと)	
規準 \ 基準	A (3 points for each)
知識・技能	Self-correction Code が○個以内である。
思考・判断・表現	〈あて名 行事名 詳細 メッセージ 月日 時間 場所 差出人〉という適切な内容を書いている。
主体的に学習に取り組む態度	Self-correction Code の部分を修正し、より正確に表現しよとしている。

単元を通してゴールに向けた振り返りを継続して行います。



ステップ ②

毎時間、帯活動として「相づち」や「つながりことば」の練習をした後に、スモールトークを1分間行い、即興的に「やり取り」をします。

誰でも最初の会話ができるように、授業の最初にボランティアとモデルトークを行い、それをスモールトークの始まりの会話にします。スモールトークを継続して行うことで、何を話したり、答えたりしたらよいかの語彙や表現方法のストックを増やし、即興性を習得します。

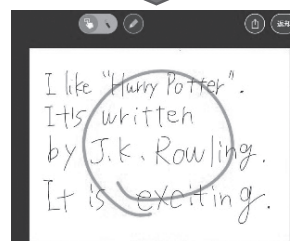
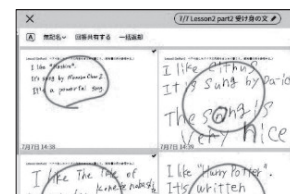


ステップ ③

生徒が積極的に取り組めるよう目的や場面・状況を設定し、生徒が相手に配慮しながらコミュニケーションを図れるようにします。

映像や音声、文章を生徒同士で共有できるアプリを活用し、生徒が積極的に表現活動を行えるようにします。

この際、授業支援アプリを用いて生徒の「考え」や「答え方」を教師が全体に提示し、新たな相手意識や模範的な答え方や頻度の高い間違った言い方のパターン等を共有・周知することで生徒の見方・考え方を深めることができます。



指定研究会情報

下越地区(五泉市・東蒲原郡中教研)英語教育研究発表会

- ◇研究主題：英語で自分の考えや気持ちを伝え合う生徒の育成
～生徒に見通しをもたせる学習プロセスの工夫～

CAN-DOリストとルーブリックを活用し、生徒に何ができるようになるか見通しをもたせます。
また、伝える相手の文化の理解を深め、配慮しながら主体的に考えを伝え合える生徒の育成を図ります。

- ◇月 日：11月26日(金) ◇会場校：五泉市立五泉中学校
◇公 開：1学級 3年 「招待状を書こう」 授業者 井上 和徳
◇指導者：下越教育事務所 指導主事 友野 直己

保健体育

明るく豊かなスポーツライフの実現を目指して

保健体育科では、今までの各地区、各校の取り組みを大切に、学び合う授業をブラッシュアップしています。

明るく豊かなスポーツライフの実現を目指し、学校、生徒の実態に応じ、単元等を通して、『体育・保健の見方・考え方を働かせ「する・見る・支える・知る」等の多様な運動の関わり方と関連づけ、試行錯誤しながら学び合い・高め合う（深い学びにいたる）』ことで「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の向上を図ります。



県中教研 保健体育部 全県部長
新潟市立石山中学校

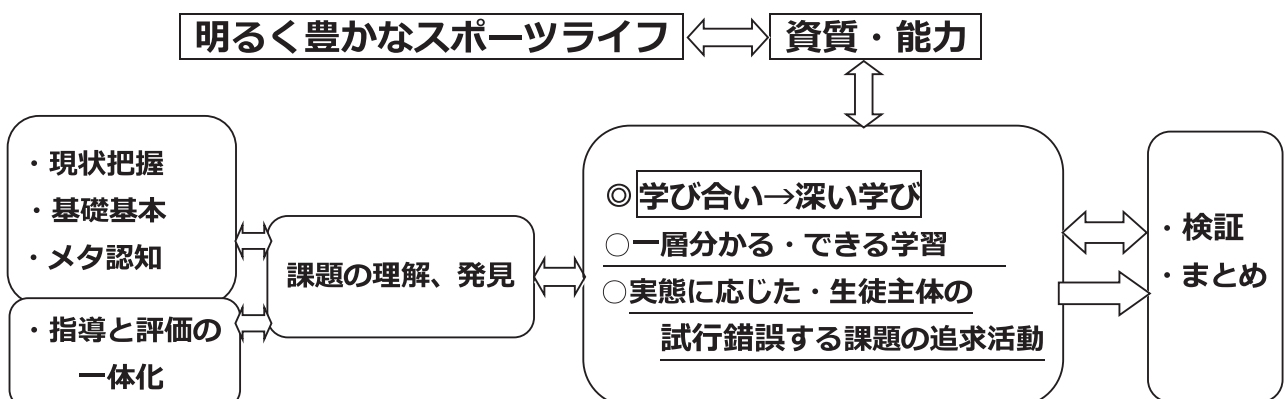
校長 阿部 修

ポイント1 深い学びにいたる 学習過程・単元構成の工夫

小野塚先生（山の下中：バドミントンの実践）は、『生徒は基本的な技能を身につけ、ゲームやラリーも成立している。しかし、「なぜ、相手の守備を崩せたのか」「なぜ得点が奪えたのか」分からず、自己の技能をゲームに十分活かしていない生徒が多い』ことに気づきました。その「なぜ」を生徒が分析し、疑問や課題を解決することがより深い学びにつながると考え、「生徒に意図的に得点を奪うことを常に考えさせて自分に適した得点のシナリオをイメージしてプレーする」ことをねらいとしました。そのために「なぜ」に気づき、解決する単元構成や学習環境の工夫、タブ

レットの活用を進め、生徒が生き生きと学ぶ実践となりました。11月に公開予定の沼田先生（見附市立西中）、淡路先生（荒川中）「両地区とも器械運動の実践」は、学び合いながら「分かる」と「できる」を往還させ、手立てや環境を工夫することで深い学びを目指しています。佐藤先生（柏崎市立第三中：器械運動集団演技）は、生徒が、学びの道筋を考えたり、場や学習内容を選択して学ぶ生徒主体の単元構成を工夫しています。音楽とリズムを活用し、個と集団の美を目指す授業を計画しています。下記に、単元構成等を編成したイメージを示します。

※学習過程等編成のイメージ



ポイント2 深い学びにいたる 手立ての工夫

各地区ともに生徒の学習意欲を喚起し、深い学びにいたる様々な手立てを実践、検討中です。

表1に各手立ての主なねらいや活用場面を左記のイメージ図にある4つの場面（A：現状把握 B：課題の発見等 C：課題の追求、学び合い D：検証まとめ）でどう活用して

いるか紹介します。

今年度実践した手立ての有効性や課題については、各地区や全県で共有していきたいと考えています。本年度はタブレットの有効性が実証されています。各地区、会員の皆さんも実践において、有効な手立てがあると思いますので、今後ぜひご紹介ください。

表1 「手立て」等の主なねらいや活用場面

（○は手立てが有効と考えた場面）

手立て	主なねらいや活用場面	A	B	C	D
○タブレット ・ロイロノート ・ファシリテーション	映像等を比較、検証、知識と技能の向上、各種評価に活用する	○	○	○	○
	他の人の考え方や学びの共有、評価に活用する。	△	○	○	△
	映像等を活用し、学び合い、技能の向上、思考や表現を深める。	△	○	○	△
○ファシリテーション	学び合いに活用する。	△	○	○	△
○単元、練習シート	自己の学びを計画し、学びの推進、検証、評価を行う。	○	△	○	○
○スポーツオノマトペ	運動のコツやポイントを共有、技能を向上する。	△	○	○	△
○学習環境、音楽・リズムの活用、グループ編成	練習環境、コート等の制限、選択、音楽の活用により課題の発見追求を促す。学び合いを成立させるペア、グループの編成	○	○	○	△
○学び方	主体的な学び、選択できる学習、場所、手立てを準備	△	○	○	○

【各地区の授業、ブレ授業の様子】



上越



中越



下越



新潟

保健体育 重点方針

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、明るく豊かなスポーツライフを実現する資質能力を育てる。

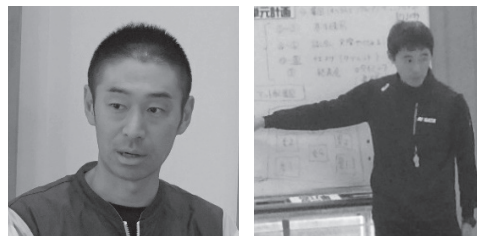
- 生徒の実態把握の充実
- 保健体育の見方・考え方を働かせることを意識した授業
- 学習過程、単元構成の見直し、工夫及び指導と評価の一体化の工夫、充実
- 楽しい授業、UDLの推進
- 個に応じた運動量の確保と体力の向上

保健体育 学び合い10

① UD（ユニバーサルデザイン）の視点による授業づくり	生徒の実態、つまづきを把握して教材、指導法の工夫や授業構成をしている。
② 単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や技能の習熟度を把握し、単元単位の目標や指導計画を立案している。
③ ねらいの明確化	本時のねらいを明確に示している。
④ 必要感・達成感ある課題の設定	生徒が自己の達成度やつまづきを理解し、主体的に取り組める課題を設定している。
⑤ 学習の見通しの提示	課題解決に向けた見通しをもたせる工夫をしている。
⑥ 発問・説明、肯定的な関わり	思考や気付きを促す発問や説明がされたり、賞賛・助言・励まし等、肯定的に関わったりしている。
⑦ 場の設定・グループ編成	課題の発見や課題解決を促す場づくりとペアやグループ編成がされている。
⑧ 学習形態の工夫	ペアやグループなど関わり合いの場を設けている。
⑨ 話し合いのルール・方法の明確化	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑩ 評価・振り返り	学習カード等を活用し、授業の振り返りをさせ、次時への課題をもたせている。

保健体育・器械運動 〈上越地区〉

マット運動集団演技発表 に向けて、学習用ipadを FTに活用！



上越市中教研 保健体育部

研究推進責任者(左) 柏崎市立第五中学校 柳 啓介
会場校担当(右) 柏崎市立第三中学校 佐藤 光介

こんな深い学びの姿を目指します

マット運動において、音楽のリズムに合わせた集団演技を構成していくことで、個人技能の向上につなげていきます。完成度の高い演技（音楽に合った集団としてきれいな演技）をつくるために、FTの中で学習用ipadを活用して自分達の課題に気づいたり、課題を踏まえた練習内容を選択して取り組んだりする姿が見られることを目指します。

深い学びへのステップ

“より高い完成度の演技”を目指し、3つの手立てを通して実現する

ステップ1

音楽やリズムを活用する。

ステップ2

演技の様子をipadで撮影し、それをもとにWB（ホワイトボード）で話し合い、自分たちの課題に気づかせる。

ステップ3

習熟度に応じた練習場所を設定したり、グループに応じた練習・学習内容等を計画したり選択したりできるようにする。

→ステップ設定の理由

WB（ホワイトボード）やipadを活用したり、既習学習を複合的に取り入れたりすることで、自己の適性や得意分野を生かしながら主体的に活動に取り組むことができます。また、動画を撮影し、それを見ながら話し合いを行うことでより完成度の高い演技について客観的に考えることができます。このステップには次の3つのメリットがあると考えます。

→ステップのメリット

- ① 音楽のリズムに合わせたり、仲間と合わせたりすることで技のタイミングを習得し、個人技能を向上させることができる。
- ② 動画を撮影することで、グループとしてより完成度の高い演技にするために何が必要かを自分たちで考え、気づくことができ、話し合いがより充実する。
- ③ 習熟度別の練習場所を設定することで、より完成度の高い演技構成に向けてグループの意欲を引き出すことができる。

ステップ ①

【音楽やリズムの活用】



タブレットとスピーカーを使って音楽やリズムを活用することで、技のタイミングを掴むことができます。



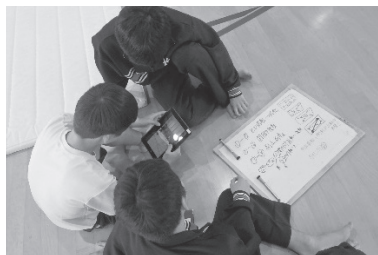
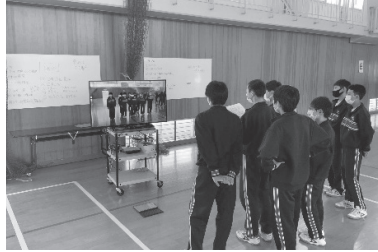
基本練習から手拍子やメトロノームなど、音を活用することで、技を合わせる意識が自然と生まれます。



ステップ ②

【iPadの活用】

iPadで撮影した動画を見て、共有することで良い点や課題が明確になります。

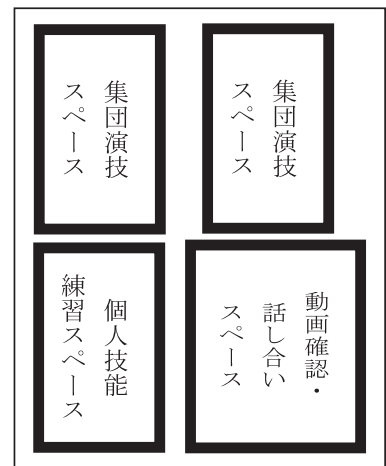


それを基にWBを使って話し合いをすることで、より完成度の高い演技構成につなげることができます。



ステップ ③

【習熟度別練習場所の設定】



【練習内容の計画や選択】

自グループの実態や習熟度に応じて練習場所や練習内容を相談し、柔軟に選択することができるようにします。



また、セーフティマットなどの道具も柔軟に使用できるようにします。

指定研究会情報

上越地区（柏崎市刈羽郡中教研）保健体育科教育研究発表会

◇研究主題：ファシリテーションを通して、主体的に活動する生徒の育成

“マット運動集団演技”の発表に向けて、より完成度の高い演技を構成しようとする授業を行います。音楽のリズムに合わせた集団演技を構成していくことが、最終的に個人技能の向上につながっていくような授業を提案します。

◇月 日：11月19日（金） ◇会場校：柏崎市立第三中学校

◇公開：1学級 3年 「器械運動（マット運動）」 授業者 佐藤 光介

◇指導者：柏崎市教育委員会 指導主事 木村 貴之
柏崎市立荒浜小学校 校長 中村 正人

保健体育 〈中越地区〉

動きのコツやポイントを共有し、
練習場면을工夫しながら、
完成度を高める

～器械運動（マット運動）～



見附市中教研 保健体育部

研究推進責任者(左) 見附市立見附中学校

相場 雅典

会場校担当(右) 見附市立西中学校

沼田 貴光

こんな深い学びの姿を目指します

動きのコツやポイントをFTを活用して共有するとともに、個々の課題を解決するために、練習場面や道具を工夫した「練習計画シート」を作成、実行し、完成度を高めていく姿が見られることを目指します。

深い学びへのステップ

動きのコツやポイントを共有し、練習場면을工夫しながら、完成度を高める。

ステップ1

動きのコツやポイントを共有するためにFTを活用する。

ステップ2

FTを活用し、個々の課題を発見し、課題を設定する。

ステップ3

課題解決に向けて、練習場面や道具等を工夫した練習計画シートを作成、実行し、完成度を高める。

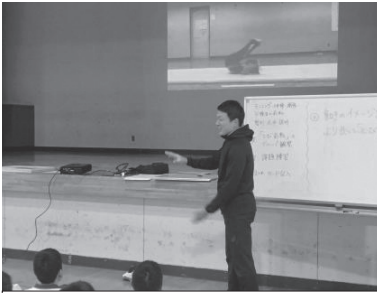
➡ステップ設定の理由

生徒がお互いに教え合うためには、運動技能の構造や体の動き等を理解していなければ、教え合うことはできません。そこで、スポーツオノマトペを利用し、FTを活用して動きのコツやポイントを共有し、教え合いに活かします。また、生徒が主体的に活動するため、課題解決のために、「練習計画シート」を作成、実行し、完成度を高めていきます。

➡ステップのメリット

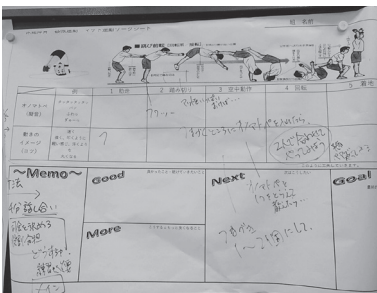
- ① 動きのコツやポイントを共有するため、教え方が統一できます。
- ② 生徒が練習計画シートを作成、実行することにより、主体的に活動することができます。

ステップ ①



動画視聴の様子

マット運動の動画を視聴し、その動きを「グッ」、「バーン」のように音を付けて、イメージを音で表現します。その音(スポーツオノマトペ)を動きのイメージとして文章で表現することによって、動きのコツやポイントをFTを活用して、互いに共有することができます。



跳び前転の動き共有シート

ステップ ②

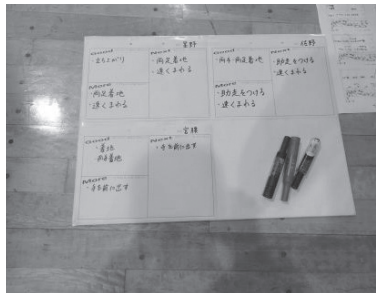
マット運動の技能を習得するために、互いに動きを見せ合い、FTを活用して、個々の課題を発見します。



動きの見せ合い場面



FTで課題発見



課題発見シート

ステップ ③



教え合いの様子

課題解決のために、練習場面や道具を工夫した「練習計画シート」を作成、実行します。

そして、共有した動きのコツやポイントを用いて、完成度を高めていきます。



カードを利用した教え合い



道具の工夫

指定研究会情報

中越地区（見附市中教研）保健体育教育研究発表会

◇研究主題：自己の課題を発見し、お互いに学び合い、高め合う生徒の育成

器械運動のマット運動において、共有した動きのコツやポイントを用いて、練習場面を工夫しながら完成度を高めていく授業を予定しています。

◇月 日：11月10日(水) ◇会場校：見附市立西中学校

◇公 開：1学級 2年 「器械運動（マット運動）」 授業者 沼田 貴光

◇指導者：長岡市立神田小学校 校長 田邊 輝明

長岡市立刈谷田中学校 校長 北山 智博

保健体育 〈新潟地区〉

単元構成の工夫と iPadによる学び合いで 深い学びにつなげる



新潟市中教研 保健体育部

研究推進責任者(左) 新潟市立木戸中学校 阿部 健
会場校担当(右) 新潟市立山の下中学校 小野塚 徹

こんな深い学びの姿を目指します

戦術的な技能の発揮をペアでの検討によって図っていくなかで、よりよい作戦を追究していきます。今までの学習活動を振り返ることで課題解決につながる単元構成を工夫したり、意図的なルールの変更やコートの工夫で学習課題をより明確にしたりしながら、学習用iPadを活用し考え方の共有と映像分析を積み重ねることで、ゲームの質や戦術を高め、深い学びにつなげていくことを目指します。

深い学びへのステップ

“意図的に得点を奪う”ことを目指し、3つの手立てで実現する

ステップ1

ねらいの達成のための学習環境を工夫する。

ステップ2

ゲームの質を高める単元構成を工夫する。

ステップ3

学習用iPadを活用する。

⇒ステップ設定の理由

ルールの簡易化やコートの工夫をすることで意図的な攻撃に必要な考え方・運動を理解し、表現しやすくします。また、単元構成を工夫することで試行錯誤を繰り返し、合理的な攻撃のシナリオ作成につけることができます。

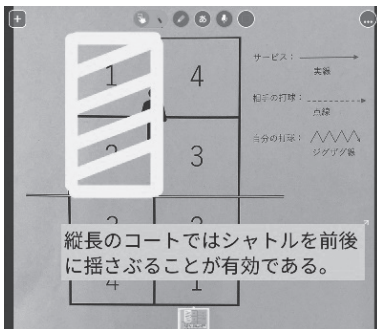
iPadの活用は前時の振り返りや考え方の共有を図ることができると同時に、映像によってプレーを随時振り返りよりよい作戦を考えるきっかけにつながります。このステップには次の2つのメリットがあります。

⇒ステップのメリット

- ① 学習課題の解決に向けた意図的な思考の深まりにつながる。
- ② 対話の活性化と分析を行うための活きた教材となり、深い学びにつながる。

ステップ ①

【学習環境の工夫】



サービスのルールを簡易化し得点のシナリオを立てやすくします。

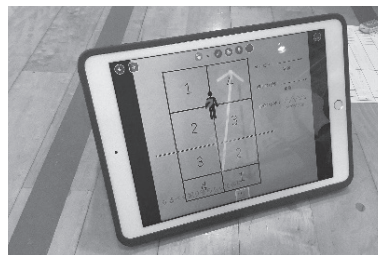
コート縦長、横長などに変えることで、意図する得点の取り方を理解しやすくします。



ネットの高さを2mにすることで、スマッシュに頼らず空いたスペースを狙う攻防を表出しやすくします。

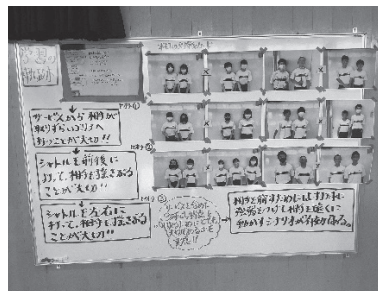
ステップ ②

【単元構成の工夫】



攻撃、守備の基本的なセオリーを提示し、生徒と共有した上で、自分の特長を生かした得点のシナリオを考えさせます。

学習活動の軌跡を表示し、生徒が習得した知識や技能を活用し学習課題を解決できるようにします。



ステップ ③

【iPadの活用】



iPad(ロイロノート)を活用し、課題解決に必要なポイントを生徒一人一人に考えさせ、たくさんの意見を引き出します【拡散】。そして、ペアで出た意見をまとめ【収束】そのポイントを意識してプレーをします。



ゲームの様子を動画で撮影し、分析に役立っています。

また、振り返りでは、全体で考えを共有し、次の学習へとつなげていきます。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）保健体育科教育研究発表会

◇研究主題：課題をもち、主体的に学び合う生徒の育成

～深い学びにいたる、わかる・できる授業を目指して～

球技「バドミントン」において生徒一人一人が主体的に課題解決に向けて思考する授業を行います。「相手の守備を崩し、意図的に得点をとる方法」を単元を貫く課題として手立てを講じながら、深い学びにいたる、わかる・できる授業を提案します。

◇月 日：6月29日(火) ◇会場校：新潟市立山の下中学校

◇公開：1学級 2年「球技(バドミントン)」授業者 小野塚 徹

◇指導者：新潟市立総合教育センター 指導主事 音田 和行

保健体育 〈下越地区〉

実践→交流・改善
(ファシリテーション)
→実践を重ねて主体的
な学びへ



村上市岩船郡中教研 保健体育部

研究推進責任者(左) 関川村立関川中学校 神田 純平

会場校担当(右) 村上市立荒川中学校 淡路 信幸

こんな深い学びの姿を目指します

ファシリテーションで生徒同士の考えを深めさせ、実際の活動を通して、他者と協力しながら思考することによって、「できる」という技能的側面だけでなく、技能のコツやポイントが「わかる」という思考的側面も生徒が発見し、主体的に学びに向かう力を獲得できる姿を目指します。

深い学びへのステップ

ファシリテーションを用いて自分の課題を導き出し、解決するための有効な方法を探る。

ステップ1

生徒の実態を把握し、目指す生徒の姿に向けて、課題を設定する。

ステップ2

導き出した課題を解決するための手立てを検討する(ファシリテーション)。

ステップ3

グループやペアで実践→交流・改善(ファシリテーション)→実践を重ねて課題解決を図る。

→ステップ設定の理由

生徒の多くは、自己の課題は把握しているものの、課題をどのように解決すれば良いかを追究しない面がある。

運動が得意な生徒も苦手な生徒も、しっかりとした知識をもち、ファシリテーションを通して、お互いの動きを観察し、動きを客観視することで課題解決の手立てを探り、課題を解決していくことによって運動の楽しさを味わわせることができると考え、設定した。

→ステップのメリット

- ① 生徒も教師もゴールを共有しながら学習を進めることができる。
- ② 自己の課題を発見し、ペアやグループで関わり合いながら課題を解決することで運動の楽しさを味わうことができる。

ステップ ①



グループで見本の動画を見ながら、自己の課題や技のポイントを探す。

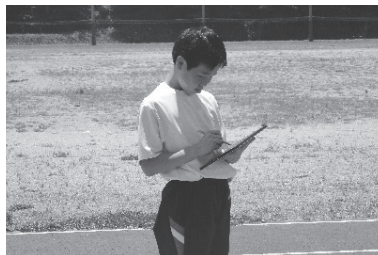
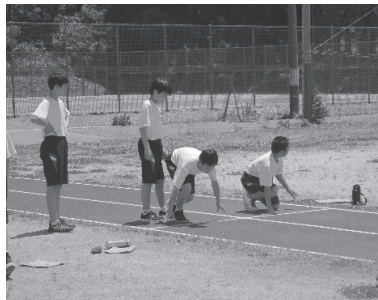
④：スタート～40mで意識すべきことは何だ！？みんなの考え

スタートのポイント <ul style="list-style-type: none"> ・5本の指で押さえている ・足に力を入れて、脚を引っつける ・しゃがみ姿勢を崩さない ・前のめりになる（足の指先を巻いている） ・下を曲ぐ（スタート直前は真下を視ている） ・足を曲げる ・左足は斜めに踏みかかっている ・手を振る ・胸を伸ばす ・かかとばかりで、つま先で走っている 	スタート後のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・40m位の所で腰を上げる（だんだん腰を上げる） ・膝を伸ばす（だんだんと起こす） ・背を伸ばす ・頭を下から上にあげていく ・肩を視ている ・顔をぶらさない ・上半身はぶれない（上半身は手は外側に向けていない） ・手を振る（手を大きく振って、意識に振る） ・地面をけつたらすぐに直す ・足もも大きく上げる（つま先ですぐに足から戻せるようにしている） ・つま先で地面に刺さる感覚を掴んでいる ・力強く地面を踏っている
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

単元を通してのゴール（目指すところ）を生徒と共有し、一人一人がゴールに向かって課題を設定する。

ステップ ②

自分で考えた走りのポイントを実際に練習してみる。

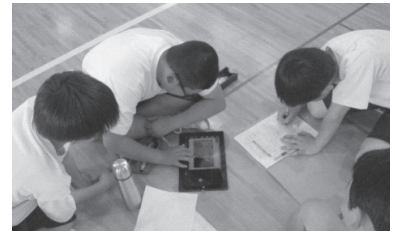


タブレットを使用し、自分の走りを動画として記録してもらい、グループで動きを確認する。

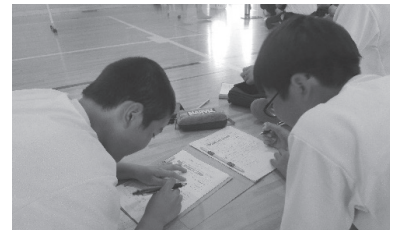
ステップ ③



振り返りの場面では、撮影した走りを見ながら、グループでアドバイスをを行う。



自分では考えつかなかった動きも教えてもらえるなど、新しい気づきが生徒間で生まれる。



実践→交流・改善（ファシリテーション）→実践を重ねて課題解決を図る。

指定研究会情報

下越地区（村上市岩船郡中教研）保健体育教育研究発表会

◇研究主題：学び合いを通して課題を導き出し、解決しようとする生徒の育成

ファシリテーションによって集団の考えを共有し、課題解決に向けて主体的に学ぶ姿を目指します。また、学習プリントを活用し、自分の振り返りを確認しながら授業を進めることにより、一人一人の思考力・判断力・表現力を高め、より深い学びになるような授業を公開します。

◇月 日：11月2日（火） ◇会場校：村上市立荒川中学校

◇公開：1学級 3年1組 「器械運動（マット運動）」 授業者 淡路 信幸

◇指導者：新潟医療福祉大学 教授 脇野 哲郎

進路指導

自分の過去を振り返り，他者の意見や考えを参考にしながら自分の未来を考える

進路指導では，キャリア発達を促す「キャリア教育」の視点が重要です。

キャリア教育では自らの生き方を考えることと同時に他者からの評価を参考に主体的に進路選択できる生徒の育成を目指します。そのためにコミュニケーションスキルの向上，キャリアパスポートの活用などが有効です。



県中教研 進路指導部 全県部長
新潟市立木戸中学校

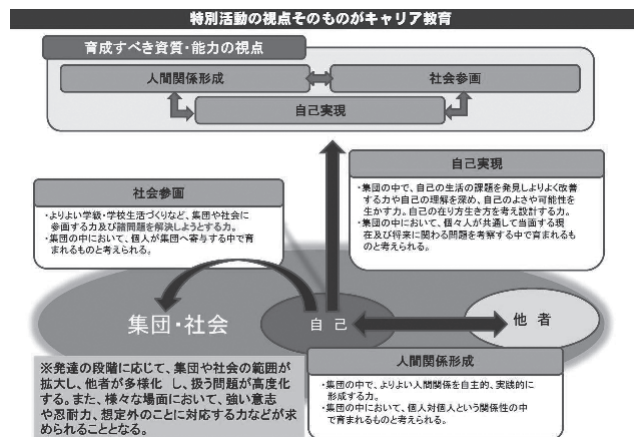
校長 佐藤 文俊

ポイント1 自分の学びの足跡を記録し，振り返ることで自己の成長を認識する。

キャリア発達を確実なものするために育成すべき資質・能力の視点として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」があります。これらの資質・能力が確実に育つためには，自分自身の課題を発見し学習活動によって自分自身がどのように育ってきたかを自己理解することが必要です。そのために，キャリアパスポートの活用がポイントとなります。

上越大島中では，キャリアパスポートから自己の学びの足跡や自己の成長を確かめる機会を設け，今後つけたい力を明確にしました。長岡大島中では，SDGsの視点を学び，持続可能な社会を作る担い手となるために，キャリアノートを活用しました。新潟東石山中では，キャリアノートをもとに，自分が頑張っ

た振り返りを2・3年生が生徒同士のインタビューで語り合いました。新発田七葉中では，体験的な活動を取り入れ，3年間を見通した課題解決学習を設定し，それらの学習の成果を蓄積した学習ポートフォリオから自己の成長を振り返ります。



文部科学省HPより

ポイント2

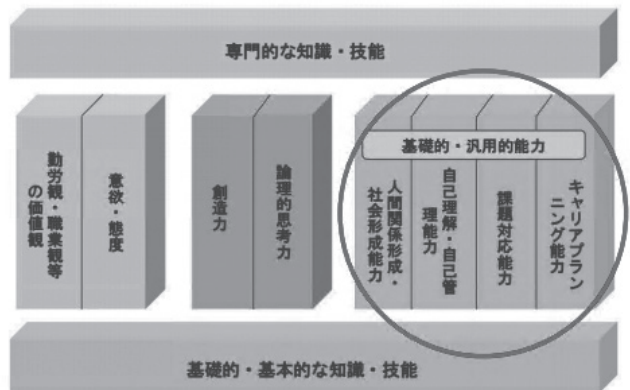
自分の経験や目標を共有しながら他と交流することで、他者からの評価を得て自己肯定感を高める。

キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力にはキャリアプランニング能力，課題対応能力の他に自己理解・自己管理能力，人間関係形成・社会形成能力があります。社会的に自立するためには自分自身が経験したことを他者と共有し，確認することが必要です。他者からの良好な評価は自己肯定感を高める機会でもあります。

他者との交流場面として，上越大島中では学校行事等の企画運営に生徒が関わることを大切にしています。長岡大島中ではSDGsの視点から活動を行い，活動を通して得られた個の力を仲間との交流を通して更に高めています。新潟東石山中では，キャリアノートを活用した自分自身の成長の振り返りの場面

で異学年交流することで自尊感情を高める取組を実施しています。新発田七葉中では，地域の方との交流を通して地域の良さや課題を理解し，自分の役割を自覚しながら課題解決型職場体験に臨んでいます。

「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素



中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日)P109より

進路指導 重点方針

自らの生き方を考え，夢や希望をもって主体的に進路を選択できる生徒を育成する。

- 自己理解を深める指導を充実させる。
- 生徒一人一人の将来に対する目的意識を高め，自己実現を図ろうとする態度を育てる。
- 勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実を図る。

進路指導 学び合い10

①	指導計画の作成	発達段階に応じた資質や能力，態度が身に付くよう計画している。
②	生徒理解と身に付けさせる能力	キャリア教育の視点から，生徒の実態と課題を把握し，どの活動場面で「基礎的・汎用的能力」を身に付けさせるか，指導計画に示している。
③	個の学びの設定	学習活動において，将来の生き方や進路について自分の考えや意見をもつことができるよう，個の学びを確かに設定している。
④	学び合いや発表のルールと方法	学び合いや発表の目的を明確にし，ルールや方法を具体的に提示している。
⑤	体験的な活動とグループ活動	職場体験やグループ学習を通して，将来について自分の考えや意見をもったり，深めたりする活動を設定している。
⑥	教科・領域との横断的な学習	キャリア教育との関連をはかり，各教科，領域での学習内容と将来の自分の生き方に関わるよう，横断的な学習をしている。
⑦	学習環境の整備	図書館の資料やパソコン等のメディアを活用したり，校外で体験活動を展開したりするなど，学習環境を整備している。
⑧	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり，新たに見出した課題が今後の生き方とどのように関わるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。
⑨	地域・家庭・高等学校等との連携	生徒が，日常生活や社会との関わりの中で進路学習が展開できるよう，地域・家庭と進路先となる高等学校等と連携を図っている。
⑩	自己決定・自己実現	自分の将来について考え，自分の意思で進路を選択し，自己実現できるよう支援している。

進路指導 〈上越地区〉

キャリア・パスポートの中の「自分」と向き合い、未来の「自分」を描くことができる生徒を目指す



上越地区中教研 進路指導部

研究推進責任者(左) 上越市立柿崎中学校

大重 志津香

会場校担当(右) 上越市立大島中学校

樺澤 恒平

こんな深い学びの姿を目指します

キャリア・パスポートから、自分の学びの足跡や自己の成長を確かめる機会をつくります。振り返りを共有することで、より多面的に自分を捉えることができ、自分自身を見つめ直し、より深く理解し、今後のキャリア形成に生かすことができるようになります。

深い学びへのステップ

キャリア・パスポートの分析から自分自身の理解を深め、次の目標を設定する。

ステップ1

生徒が行事に参画する。全体目標、個人目標や達成目標を設定する。

ステップ2

行事の振り返りを行い、キャリア・パスポートに綴る。

ステップ3

蓄積してきたキャリア・パスポートを用いて振り返り、今後付けたい力を明確にする。

⇒ステップ設定の理由

本校は、生徒が主体となって活動し、生徒自らが学校生活の質を高めるという伝統がある。生徒心得の内容の見直しや体育祭などの学校行事の企画・運営は生徒が担っている。活動後の振り返りで生徒が自分の成長を明確に認識できない状況があった。自分の役割達成のために何をどうするか目標設定が弱かった。そこで、3つのステップをスパイラルに実施することでキャリア形成を図ろうと考えた。

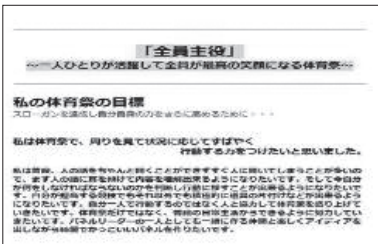
⇒ステップのメリット

- ① キャリア・パスポートを用いることで学びのプロセスを視覚的に捉えることができる。
- ② ステップを繰り返すことによって生徒の資質・能力をスパイラルアップしていくことができる。

ステップ 1



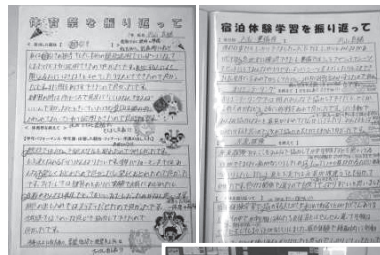
当校では、学校行事等の企画・立案・運営に生徒が関わることを大切にしています。これまでは地域の行事に生徒が参画していく活動をメインに行っていました。昨年度は、地域行事の中止や教育活動への制約がある中、「校内活性化プロジェクト」を生徒会で立ち上げ、感染症対策を講じながら学校生活が楽しくなるような行事やイベントを企画、実施しました。



活動前にSTEP 3の資料をもとに目標設定をします。

ステップ 2

活動後には、全体の目標や個人でたてた目標に沿って振り返りを行いキャリア・パスポートに綴りました。学級での対話的な関わりによって、自分では気付かなかった一面に気付くことができます。生徒会の行事だけでなく、講習会や体験活動の学習シートもキャリア・パスポートに綴り、学びの足跡が分かるようにしました。

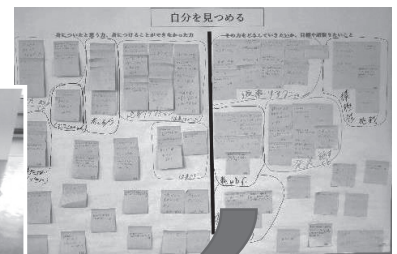


ステップ 3

蓄積してきたキャリア・パスポートを振り返る活動を行いました。「身に付いた力、身に付けることができなかった力」「これからその力をどうしていきたいか」を個人で書き出しました。



付箋に書き写し、模造紙に貼ってグルーピングをしました。発表の際に、どんな経験から何を考えたのかを述べ、友達同士で対話することにより自分では気づかなかった一面など、多面的に自分自身を捉えることができます。



指定研究会情報

上越地区（上越地区中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：自分のよさを発揮し、「豊かに生きる力」を育む進路指導
～キャリア・パスポートの利用を通して～

1学期末にSTEP 3のキャリア・パスポートを用いた振り返り活動を行いました。9月の体育祭後の活動を通して生徒がどのような目標をもち、どのように取り組み、活動を振り返ってきたのかを公開します。キャリア・パスポートの振り返りのまとめから、体育祭後の振り返り作成までの過程を収録し、編集したものを公開する予定です。

◇月 日：9月17日（金） ◇会場校：上越市立大島中学校

◇公 開：全校 「体育祭での私の成長～キャリア・パスポートを活用して～」
授業者 樺澤 恒平

◇指導者：上越市教育委員会学校教育課 指導主事 曾根原 至

進路指導 〈中越地区〉

持続可能な社会の担い手 となる意識を高める キャリア教育の実践



長岡市・三島郡中教研 進路指導部

研究推進責任者(左) 長岡市立関原中学校

高橋 亜希子

会場校担当(右) 長岡市立大島中学校

本間 陽子

こんな深い学びの姿を目指します

SDGsの視点を学び、持続可能な社会をつくる担い手となるために、自分の身の回りの課題を見いだし、「自分ゴト」としてとらえます。主体的に自分の力を生かし、社会に貢献しようとする態度（勤労観）を育てていくことを目指します。

深い学びへのステップ

「学び・深め・広げる」活動で「主体的・対話的で深い学び」を実践。SDGsの視点を生徒会活動に生かす。

ステップ1

学んだSDGsの視点を学校生活のどの場面でどのように生かすか考え計画する。

ステップ2

個で計画した活動を実践する。活動を振り返り、課題・成果を把握する。

ステップ3

自己の学びを振り返り、学習意欲、社会貢献への関心・意欲の変容を捉え、未来の自分の姿を考える。仲間との交流を通して、考えを深める。

➡ステップ設定の理由

先行き不透明な社会であるからこそ、「求められること」「必要な力」を考え、どのように働いたり、自己の力を生かしたりできるかを見い出すことを目指します。

自分を取り巻く環境や人々に目を向け、課題を見いだし、改善してよりよい環境・関係づくりを実践し、自己の力を生かします。自己の力を生かした成功体験により自己有用感を高めることで、生徒自身が主体的に将来設計する力を育てます。

➡ステップのメリット

- ① 生徒会活動で実践することにより、課題・成果を共有できる。
- ② 自ら課題を見いだし、「自分ゴト」として捉え、実践体験を積み重ねることにより、学習意欲・社会貢献意欲を高めることができる。

ステップ ①



自分の立場や役割に応じて、個の「活動計画書」を作成することにより、見通しをもつとともに、課題を「自分ゴト」としてとらえ、活動の意義を自ら見いだすことができます。



学んだSDGsの視点を生徒会活動で生かし、自分たちを取り巻く課題を主体的に解決するための活動を計画します。

ステップ ②



個の「活動計画書」に従って、SDGsの視点を生かして、個の力を役立てます。持続可能な活動にできるよう、後輩たちに伝える活動を仕組み、さらに学びを広げます。



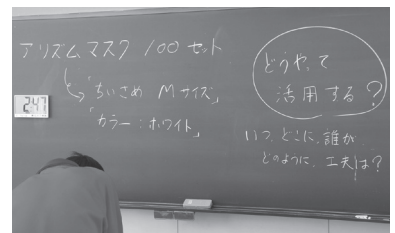
定期的に活動を振り返り、成果・課題を把握し、目標と現状のズレを認知することにより、課題意識を高めます。

ステップ ③



「未来へのパスポート」を作成し、「3年間の学びを生かした活動」を振り返ります。自己の変容と成長をとらえ、自己肯定感を高めます。

よりよい生活や学習、生き方を目指して、自ら課題を見だし、自分の力を生かして貢献しようとする姿勢を目指します。



指定研究会情報

中越地区（長岡市・三島郡中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：主体的に学び、将来に備えようとする生徒を育成する

個で設定したSDGsの視点を生かす活動の実践を紹介し、成果と課題について意見交流します。個の3年間のポートフォリオをもとに、自己を振り返りながら、学習意欲や社会貢献への意識の変容についてまとめる予定です。

◇月 日：10月29日（金） ◇会場校：長岡市立大島中学校

◇公 開：1学級 3年4組 「自己をみつめる～『キャリア・パスポート』の作成を通して」
授業者 大倉 豪

◇指導者：上越教育大学 特任教授 佐藤 賢治

進路指導 〈新潟地区〉

「キャリア・ノート」の活用で、生徒が成長を実感できる授業



新潟市中教研 進路指導部

研究推進責任者(左) 新潟市立坂井輪中学校 岩崎 正法
会場校担当(右) 新潟市立東石山中学校 中澤 啓介

こんな深い学びの姿を目指します

メタ認知的に自らの成長を実感したり、新たな気づきを得たりすることによって、生徒は自尊感情を高めます。3年生からのアドバイスをもとに、次年度の最高学年として様々な行事に積極的に関わる姿を具体的にイメージできる2年生、2年生の時とは違った視点で物事をとらえたり、中学校卒業後の自らの姿を前向きに考えたりすることができる3年生を目指します。

深い学びへのステップ

語り、語られる活動と他者から肯定的な評価をもらう活動を取り入れる。

ステップ1

「キャリア・ノート」をもとに自らの成長を振り返る。

ステップ2

異学年グループの中で、オープンクエスチョンで語り合う。

ステップ3

他者から肯定的な評価をもらう。

→ステップ設定の理由

「キャリア・ノート」をもとに、1年間の活動の振り返りを記述することで、生徒は自らの成長を自覚します。しかし、「成長した自分」に気付いていなかったり、自信がもてなかったりする生徒も少なくありません。

異学年の生徒同士がそれぞれの視点で、経験をもとに共感的に語り合うことには、2つのメリットがあります。

→ステップのメリット

- ① 「なぜ？」を中心とする問いで語り合うことで、新たな視点で自らの成長に気付くことができます。
- ② 自らの成長を認めてもらうことで、前向きな姿勢を育むことができます。

ステップ ①

「キャリア・ノート」をもとに自らの成長を振り返る

主に学校行事の振り返りのポートフォリオである「キャリア・ノート」をもとに、どのような力を身に付けたのか、理由やエピソードを具体的な場面に関連づけて記入していきます。記入することで、生徒は「成長した自分」を自覚できるようになります。

東石山中学校で身に付けさせたい力

- ・ 思いを受け止める力
- ・ 思いを伝える力
- ・ 自分を理解する力
- ・ 自分を高めようとする力
- ・ 主体的にやり抜く力
- ・ 将来を見つめる力 など

※キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」より

ステップ ②

異学年グループの中で、オープンクエスチョンで語り合う

2・3年生混合の4～5人の班を編制します。各自が「成長した自分」について語ります。インタビューが「なぜ?」「そういった場面では?」などオープンクエスチョンを重ねます。以前は意識していなかったことにも「成長した自分」を見出すようになります。新しく気付いたことは赤ペンで追記していきます。また、インタビューや聞いている生徒たちが自らの経験に照らし合わせて共感的にアドバイスをすることで、次学年への見通しをもったり、前年度からの視点の変化に気付いたりするようになります。

自分の成長を考える(ワークシート②) [記入例]

年 組 番氏 名

◎身に付けた力

- ・ 思いを伝える力
- ・ 思いを受け止める力

※口内は、赤鉛筆で記入した内容を表す

◎理由・エピソード

- ・ 優劣を取りたいという気持ちや、どんな会話をしたいかを仲間と伝えながら練習に励むことができたから。
- ・ お互いに伝え合ったから、受け止める力にもなった。

いいね (GOOD)

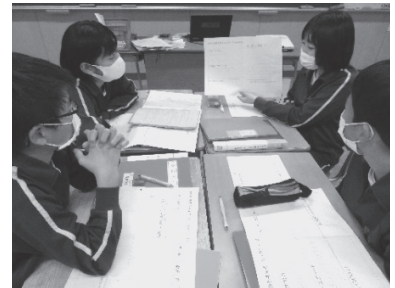
振り返り (授業中や授業後の振り返りシートやポートフォリオ)

インタビューを通して、成長した自分を見出すことができました。また、異学年での語り語られる交流を通して、お互いの成長を認め合う授業を行いました。

ステップ ③

他者から肯定的な評価をもらう

全員のインタビューが終わったら、班のメンバーから「いいね(GOOD)」の欄に、一言ずつ肯定的な感想や励ましの言葉を記入してもらいます。他の生徒から「成長した自分」を認めてもらうことで、生徒は自尊感情を高めたり、自分の成長を実感したりし、次への意欲を導き出します。



指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：将来への夢や希望をもち生き方を考えるキャリア教育の推進

昨年度から本格的に運用が開始された「キャリア・ノート」を効果的に活用する方法を提案します。「キャリア・ノート」をもとに生徒自らの成長を振り返らせるとともに、異学年での語り語られる交流を通して、お互いの成長を認め合う授業を行います。

◇月 日：11月17日(水) ◇会場校：新潟市立東石山中学校

◇公 開：12学級（2・3年生混合の学級編制）

授業者 3年部教員6名、2年部教員6名

◇指導者：新潟医療福祉大学 教授 脇野 哲郎

新潟市教育委員会 指導主事 庭田 茂範

進路指導 〈下越地区〉

体験的で探求的な課題解決型の活動を取り入れ、自己の生き方を見つめる生徒の育成を目指します



新発田市中教研 進路指導部

研究推進責任者(左) 新発田市立豊浦中学校

長谷川 典子

会場校担当(右) 新発田市立七葉中学校

堀田 和恵

こんな深い学びの姿を目指します

「地域」をテーマに、現状や課題を学ぶ中から生まれた問いや疑問をもとに課題を設定し、体験的な活動等を通して課題解決に取り組む3年間のカリキュラムを作成します。課題解決に向け、自分の役割を自覚しながら見通しをもって計画し、粘り強く取り組ませることで一人一人のキャリア形成と自己実現を目指します。

深い学びへのステップ

3年間を見通し、それぞれの学年に合わせた課題解決に向けた取組を行うことで、学びを深める。

ステップ1

地域の方との交流活動を通して、地域のよさや問題を理解し、地域貢献活動を実施する。

ステップ2

職場体験事前オリエンテーションを通して自分の役割を自覚して課題解決型職場体験に取り組む。

ステップ3

蓄積した学習ポートフォリオを活用し、自己の成長を振り返り、未来の自分を考える。

➡ステップ設定の理由

生徒に自分の生き方を考えさせるためには、体験的な活動を取り入れて、課題解決学習を設定することが有効だと考えます。さらに、活動で得た気づきを振り返り、仲間と語り合い、認め合う活動を通して、自己の変容や成長を実感させ、新たな課題解決に向かう意欲や、よりよい生き方を追究しようとする態度の醸成につながります。

➡ステップのメリット

- ① 体験的な活動を通して、課題解決に取り組むことができる。
- ② 自分の成長や変容を実感することで、さらなる成長への意欲を喚起することができる。

ステップ ①



地域の方と、「七葉中学校区の地域のよさや課題は何か」について考えを共有し、「どんな地域にしていきたいか」について意見交流し考えを深めました。



その学びを基に、地域にどのような働きかけができるか話し合いを重ね、「地域貢献活動」を実施しました。

ステップ ②

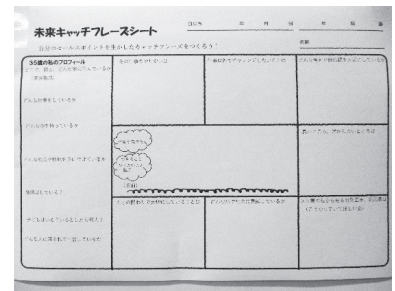
20の事業所で「課題解決型職場体験学習」を行いました。事業所が抱える課題（ミッション）を事前に生徒に示し、職場体験活動を通して、課題解決に向けて主体的に学習を進めました。



「職場体験学習」の1ヶ月前には、「事前オリエンテーション」を行い、事業所の方に、課題（ミッション）を提示していただいたり、“生き方”や“お仕事”について語っていただいたりしました。

ステップ ③

3年間の活動を振り返り、自己の変容と成長を意識させます。他者との交流活動を通して、自己や他者の頑張りやよさに気付く活動を行います。また、さらなる成長を目指した「未来プランシート」を作成し、「未来の自分の姿」へ学びをつなげます。



指定研究会情報

下越地区（新発田市中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：体験的な活動を通して、自分自身や地域のよさや特色を理解し、将来の生き方を見つめる生徒の育成

体験的な活動を通して課題解決に取り組んできたことをもとに、自分や他人の頑張りやよさの気付きから自分の成長や変容を実感させる活動を行います。今までの活動を振り返りながら、自分たちの成長を語り合い認め合うことを通して、未来の自分をプランニングする授業を予定しています。

◇月 日：11月5日（金） ◇会場校：新発田市立七葉中学校

◇公 開：3学年 2学級合同 「未来キャッチフレーズをつくる」

授業者 丸田 幸恵、皆川 加代子、清田 麻衣

◇指導者：新潟大学教授 松井 賢二

③ 指定研究 1 年目の進捗状況

県中教研の重点目標『「見方・考え方」に着目し、「深い学びにいたる学び合う授業」によって生徒に確かな資質・能力を育む研究活動を進める』の実現に向け、本年度から研究がスタートしたチームです。

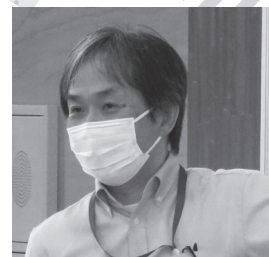
美術、技術・家庭、特別活動、総合的な学習の時間の4教科・領域は、本年度から上越・新潟と中越・下越の2地区ずつが指定されることとなりました。



国語

言葉による見方・考え方を働かせた言語活動を通して、主体的・対話的で深い学びを目指します！

社会生活に必要な国語力を身に付け、考えを伝え合える生徒の育成には、改めて「言葉」に着目して理解したり、「言葉」に気を付けて表現したりする活動が求められます。



全県部長
上越市立中郷中学校
校長 西條 正人

▶上越地区

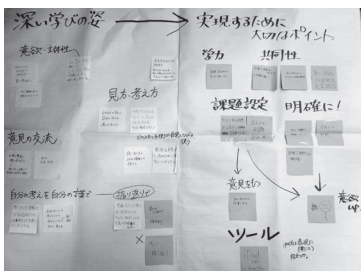
目指す深い学びの姿を共有



柏崎市刈羽郡中教研
柏崎市立鏡が沖中学校
大島 彩弥香

第1回の推進委員会で目指す深い学びの姿と実現のためのポイントを、FTで共有しました。

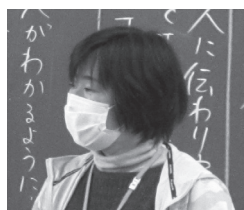
今年度は2回の授業公開を予定しています。



第1回研究推進委員会の様子(柏崎市立第二中学校)

▶新潟地区

表現力の向上をめざして！



新潟市中教研
新潟市立新津第五中学校
小澤 ひろみ

「情報・状況を整理・活用し、協働的な学びを通して表現力を高める指導の工夫」を研究テーマに設定しました。テーマに迫る指導の手立てを検討中です。



7月21日に行った単元構想検討会

▶中越地区

「深い学び」に向かう4つのポイント



長岡市中教研
長岡市立西中学校
小嶋 祐子

「言葉による見方・考え方を具体化しながら、次の4点の在り方を探ります。

- ①深い教材研究
- ②良質な学習課題
- ③深まる対話に向けての支援
- ④まとめと振り返り

▶下越地区

深い学びが成立する学び合いを！！

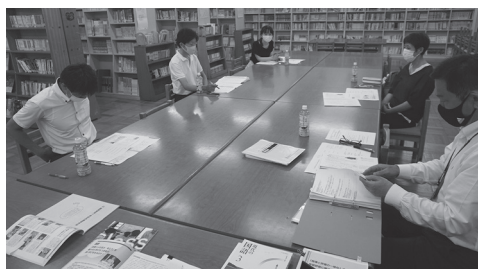


二市北蒲中教研
胎内市立築地中学校
小林 優一

研究主題は「自分の考えを深め表現できる生徒の育成～言葉による見方・考え方を働かせる学び合いの工夫～」です。深い学びを実現する上で大切なポイントや手立てについて検討していきます。



研究推進委員会で模擬授業
深い学びを
実感！



第1回研究推進委員会の様子

数学

「数学的活動」を充実させ、「数学的に考える資質・能力」の育成を目指します

これまでの授業においても大切にしてきた「数学的な見方・考え方」、「数学的活動」。

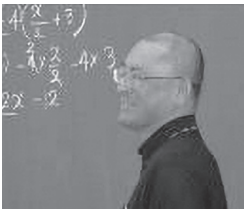
学習指導要領の趣旨を踏まえ、これらをより意識し、生徒に「数学的に考える資質・能力」を育む授業を提案します。



全県部長
十日町市立水沢中学校
校長 山本 俊介

▶上越地区

深い学びにつながる課題設定とは！



数学で付きたい力や深い学びとはどういう学びなのかについて意見交換し共通理解しました。生徒が生き生きと学べる授業づくりを目指します。

妙高市中教研
妙高市立新井中学校
三野 博治

深い学びにつながる課題設定について検討しています。



▶新潟地区

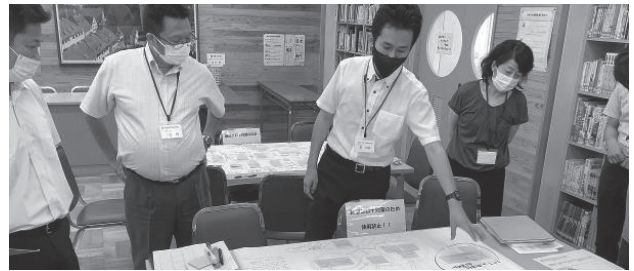
めざす授業を共有しました！



第1回研究推進委員会では、生徒に身に付けさせたい資質・能力について意見交換し、共有しました。次回は「見通し」「対話」「振り返り」の視点で、授業を検討していきます。

新潟市中教研
新潟市立早通中学校
土田 健太郎

6月30日に実施した第1回研究推進委員会の様子



▶中越地区

考える子どもを育てる授業！



深い学びにつながる子どもの姿を共有しました。今後指導案検討会を行い、研修メンバーによる授業実践を行っていきます。

南魚沼市中教研
南魚沼市立塩沢中学校
小林 成夢

▶下越地区

深い学びのある授業を目指して！



生徒に「問い」をもたせるための手立てについて、検討しました。既習の知識を関連付けて課題解決し、自分のことばで「まとめる」ことで、深い学びのある授業を目指します。

新発田市中教研
新発田市立本丸中学校
加藤 直樹

深い学びの手立てを検討している様子です。



目指す生徒の姿を共有しました。



道徳

自分の考えを多面的・多角的に捉え直し，これからの生き方を考える。

生徒が，課題を自分事として捉え，道徳的諸価値をもとに，学び合いによる「自分を語る」授業を目指します。

多様な視点から自分の考えを捉え直し，よりよい生き方を考えます。



全県部長
新発田市立七葉中学校
校長 野澤 一吉

▶上越地区

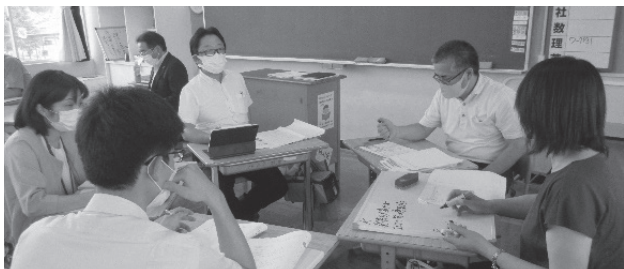
深い学びを目指した実践交流！



上越市中教研
上越市立直江津中学校
遠藤 義紀

研究拠点校である板倉中学校を中心に，道徳で深い学びを目指して「授業展開」「発問」に焦点をあてた実践を，年に4回以上実施し検証します。

7月12日に実施した板倉中学校公開授業後の授業検討会



▶新潟地区

「対話的な学び」の視点を大切にする道徳授業



新潟市中教研
新潟市立新潟柳都中学校
石山 友範

教材，他者，自分との対話を通して多面的・多角的に考えながら，最適解・納得解へつなげる授業展開について検討していきます。

田澤教諭 公開授業の様子
(新潟市立白新中学校)



▶中越地区

道徳性が深まる手法を追求



魚沼市中教研
魚沼市立湯之谷中学校
渋谷 祐樹

研究推進委員会では，根拠に迫る問いかけ問い返し，登場人物に共感するための問い返しの手法，役割演技を用いた授業実践について研究を進めています。

公開授業の様子
(魚沼市立広神中学校)



▶下越地区

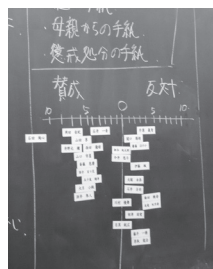
考え議論する授業



五泉市東蒲原郡中教研
五泉市立五泉中学校
後藤 陽子

多面的・多角的に考える資料の選定と，道徳的価値を理解し自己の変容を促す中心発問の工夫について，研究を進めていきます。

6月23日 公開授業の様子
(五泉市立川東中学校)



美術

美しいものに素直に感動し、感性を豊かにする。さまざまな価値観に出会い、創造的に思考する。そんな美術の授業を通して、これからの未来を担う生徒を育みます。



全県部長
阿賀町立阿賀津川中学校
校長 稲生 一徳

技術・家庭

自分の生活に関わる実践的・体験的活動を軸として研究を進めます。変化の激しいこれからの時代を生きていく生徒が、よりよく生活していくことができる力を身につけることを目指します。



全県部長
新潟市立関屋中学校
校長 山田 聡

▶中越地区

必要な力を育てるために！



長岡市中教研
長岡市立大島中学校
竹田 祉薫

主体的に学び合う姿を目指し、ICT機器の使用で学習意欲を高め、理解が深まる授業の実現ができないかを話し合いました。

今後の検討で、方向性を明確にしていきます。

授業場面に応じたICTの活用を共有



▶上越地区

ICTを使った安心生活！！



柏崎市中教研
柏崎市立第一中学校
樋口 雅樹

目指すは、ダイバーシティ & インクルージョン。安心した生活への手助けとなる秘密道具を、技術・家庭の授業で探究します。今回は高齢者やハンデのある方にスポットを当てています。



技術分野：計測制御の授業に向けた教材研究の様子

▶下越地区

FTで課題の共有！



村上市岩船郡中教研
村上市立村上第一中学校
野原 千絵

美術科での「目指す姿」「現状」「解決策」を部員間で共有するためのFTを行いました。

美術館学芸員と連携した授業の可能性を模索しています。

8月4日に実施した第2回研究推進委員会のFT



▶新潟地区

学びの成果をどのように生活に生かすか！！



新潟市中教研
新潟市立山潟中学校
寺田 敬史

学習の成果をどのように生活に生かすことができるかを考えることができる生徒を育てるべく、技術、家庭の両分野で授業を検討中です。

技術分野・家庭分野の検討の様子



特別活動

「自分達の課題は自分達で解決する!」。生徒自身が集団生活や人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりする姿を模索しています。



全県部長
長岡市立江陽中学校
校長 佐藤 裕之

総合的な学習の時間

教育課程の核となる総合的な学習の時間で身につけた資質・能力は、教科横断的に活用されます。いわゆる駆動する知識を身につける学習活動を工夫しました。



全県部長
新潟市立小新中学校
校長 保科 賢一郎

▶上越地区

「どんな自分になりたいか?」を考える



上越市中教研
上越市立春日中学校
木花 一則

キャリア教育を軸に、いろいろな人とつながり、対話することを大切に、個々の生徒の自己実現に向けた主体的な実践活動を考えられています。

地域の方と一緒に話し合う様子。地域を考え、地域から学ぶ!



▶中越地区

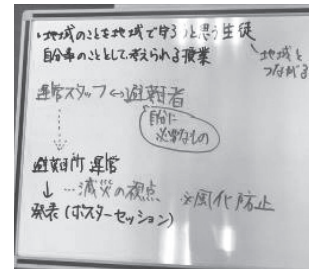
体験活動を通して課題を自分事としてとらえる!



三条市中教研
三条市立本成寺中学校
米山 國男

防災について、体験活動を通して課題を自分事としてとらえ、地域との連携、継続した取り組みには何が必要か考える授業を行います。

研究推進委員会では目指す生徒の姿について協議しました。



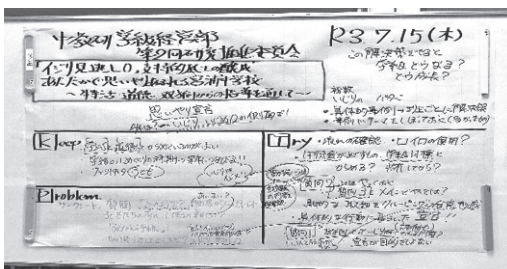
▶新潟地区

自分事として捉える課題提示を検討



新潟市中教研
新潟市立濁川中学校
松山 綾子

研究主題は、「よりよい人間関係を育む学年・学級経営の工夫」です。特別活動における見方・考え方を働かせて、そこに向かう過程で身に付ける資質・能力の三本柱がどのように発揮されるのかが分かるような授業構想を検討中です。



推進委員会で指導案検討を行いました。

▶下越地区

探究的な地域学習を目指して



佐渡市中教研
佐渡市立金井中学校
樋口 剛

会場校の実践計画に関し、各学年の内容の充実と3年間の系統性に関する検討を行いました。地域に根ざした学習を通して、自己の生き方を考える学習を推進していきます。

推進委員で実践計画の検討を行う。



4 授業ナビゲーション



授業ナビゲーションは、ユニバーサルデザインの知見に基づいて学習環境を整える「授業スタンダード10」、教師の学び合いの指針としての「研修体制7・Web配信3」、各教科・領域の学び合う授業づくりで大切にしている視点である「学び合い10」および各教科の「重点目標」です。

授業づくりと校内研修等の指針として御活用ください。

県中教研 授業ナビゲーション

授業スタンダード10		
①	指示・発問の明確化	生徒の活動を止めるなど注目させて、明確な指示や発問をしている。
②	授業のめあてと流れの提示	授業のめあてと授業の流れを生徒に示している。
③	配色やノートを意識した板書	配色や生徒のノートづくりを意識し、板書やワークシートを工夫している。
④	評価カード等での振り返り	評価カードや小テスト等で授業の振り返りをしている。
⑤	忘れ物への対応	予備ワークシートや予備教具を準備し、忘れ物に対応している。
⑥	内容・準備の事前連絡	学習内容や準備するものを事前に伝えている。
⑦	開始終了時刻の厳守	授業の開始時刻、終了時刻を守っている。
⑧	教室前面の掲示物の簡素化	教室の前面には配色を意識して、必要なものだけを掲示している。
⑨	机の上の整理	机の上には必要なものだけを置くようにさせている。
⑩	座席・グループの配慮	特別に支援を要する生徒や人間関係に配慮して座席やグループを決めている。

研修体制7		
①	課題の抽出と目標の設定	現状から課題を抽出し、明確な目標を設定している。
②	課題と研修目的の共有	課題と研究の目的を全教員が共有している。
③	年1回以上の研究授業	年間1回以上は全教員が研究授業をしている。
④	事前事後の検討会	研究授業は事前・事後に検討・協議会を組織し、実施している。
⑤	他教科や他校職員の参加	研究授業では、その教科以外の教員や他校教員が参観している。
⑥	参画型の検討会	検討・協議会は、ワークショップ型など参加者全員の参画を図っている。
⑦	外部指導者	外部から指導者を入れて研究授業を行っている。

Web配信3		
⑧	全校体制での実施	実施監督や採点、入力などを分担する体制ができている。
⑨	時間・座席等の環境整備	校時表に組み入れたり、テスト用の座席にするなど、環境を整え実施している。
⑩	結果の共有と改善	結果を分析・共有し、補充学習や授業改善を全校体制で行っている。

学び合い10 (国語)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒個々の学習状況に基づいて授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や表現力の実態を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を高める課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じた、個別・ペア・班・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	学び合いを支える言語事項の充実	漢字、文法、語彙、語句の用法、記述の方法等の理解・定着を図っている。
⑦	正確な理解と適切な表現	根拠を明確にして、自分の考えを形成し、論理的、想像的に表現する学習場面を設定している。
⑧	豊かな言語感覚の育成	文体や文脈中の語句が醸し出す味わいに注目して読み取ったり、表現したりする学習場面を設定している。
⑨	日常生活や社会生活との関連	日常生活や社会生活との関連を図って学習を進めている。
⑩	言語活動の充実	ねらいに応じた言語活動を通して、考えを広げたり深めたりするよう工夫している。

学び合い10 (社会)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項を把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	生徒が興味・関心をもつ課題設定	生徒が好奇心をもったり、学習意欲が高まったりするような課題を設定している。
④	学習形態の工夫	課題解決のために一斉・個・ペア・グループなどの学習形態を場面ごとに設定している。
⑤	日常生活や社会との関連	生活と関わらせたり、ニュースなどを活用したりして授業を進めている。
⑥	話し合いの目的やルールの明確化	話し合いのルールや方法を具体的に提示している。
⑦	考察場面の設定	根拠をもとに多角的に考察し、様々な方法で表現する場を設定している。
⑧	図・表・資料等の適切な活用	図・表・資料などを適切に読み取り、事実にもとづいて自分の考えを表現する活動の充実を図っている。
⑨	意見交換の場面の設定	⑧との関連を図りながら、他の意見を聞き、自分の考えを深めさせている。
⑩	評価・振り返り	他者評価や自己評価を評価シートなどで評価し、自分の学習活動を振り返る場面を設定している。

学び合い10 (数学)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	必要感・達成感のある課題	生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題を出している。
④	ペア・グループによる学習	ペア学習や3～5人によるグループ学習を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	生徒同士が関わり合う場	発表会で終わらず、生徒同士が関わり合う場を取り入れている。
⑦	家庭学習の充実	授業と関連付けて課題を出したり、点検をしたりしている。
⑧	原理や法則との関連	数学の原理や法則との関連を意識させる授業を行っている。
⑨	日常生活や社会との関連	日常生活や社会との関連を図って学習を進めている。
⑩	図・表・式等の言語活動の充実	生徒の考えを図・表・式等の数学的表現で表す言語活動の充実を図っている。

学び合い10 (理科)

<理科授業スタンダード5>

①	生徒の素朴概念の把握	生徒の素朴概念を把握して、授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位の目標や指導計画を立てている。
③	基本操作の充実	観察・実験に必要な操作ができるように支援している。
④	直接体験の重視	直接体験を重視した観察・実験を行なっている。
⑤	日常生活との関連	学習内容を日常生活と関連付けて考えさせる授業をしている。

<理科学び合い5>

⑥	問題意識をもたせる事象提示	感動や驚きを誘発し、単元全体の問題意識を高める事象提示をしている。
⑦	根拠をもとにした予想理由の検討	事象に対し、既習事項と関連付けた予想理由を検討させている。
⑧	仮説を検証する実験方法の工夫	仮説や予想を確かめるための観察・実験方法を考えさせている。
⑨	気付きを大切にしたい観察・実験の工夫	生徒の気付きを大切にしながら観察・実験を行わせている。
⑩	結果をもとにした考察の意見交換	観察・実験の結果をもとに結論を導き、生徒同士の意見交換を通して考えを深めさせている。

学び合い10 (英語)

①	学習集団	安心して自己開示できる支持的風土のある学習集団を作っている。
②	帯活動	即興的な言語活動等を帯活動に位置づけ、継続的に指導している。
③	指導と評価の一体化	単元単位の到達目標を設定し、逆向き設計で指導し、評価している。
④	教科書指導	アウトプット重視の教科書指導で、使える語彙や表現の幅を広げている。
⑤	言語活動	言語活動にコミュニケーションを行う目的、場面、状況を入れている。
⑥	学び合い	言語活動の合間等に生徒に時間を預け、生徒の協働を通じてうまく表現できなかったことが表現できるようになる手立てを講じている。
⑦	正確さと流暢さ	両者のバランスを踏まえ、一体的な育成を意識して指導している。
⑧	1人1台端末	即興的な言語活動等、毎時間のようにタブレット端末を活用している。
⑨	5領域のバランス	統合型言語活動の導入等、指導領域が偏らないように意識している。
⑩	目標と振り返り	学習到達目標に照らして、自身の状況を振り返る機会を設けている。

学び合い10 (音楽)

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	題材の目標・指導計画	生徒の技能等の実態を把握した上で、目標や計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を生かした課題の工夫をしている。
④	〔共通事項〕の取扱	〔共通事項〕について、それらの働きを生徒が実感し、表現や鑑賞の学習に生かすことができるよう配慮している。
⑤	活動の手順、ルールの周知	活動の見通しが分かるよう活動の手順・ルールを明確に提示している。
⑥	学習形態	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態（パート・ペア等）と構成を選択し、役割等を明確に提示している。
⑦	基礎的な表現の技能	基礎的な表現の技能を身に付ける指導を題材の中で適切に位置付けている。
⑧	表現の工夫	表現したい思いや意図にもとづき、要素の働きを試行錯誤する場面を設定している。
⑨	言語事項	感じ取ったことや考えたことを音楽に関する用語などを用いて言葉で表す活動の充実を図っている。
⑩	評価・振り返り	ねらいやポイント（評価シート等で）に即して活動を振り返る場面を設定している。

学び合い10 (美術)		
①	題材と目標と指導計画	生徒の発達段階や生活体験, 学習状況に基づいて, 指導計画や授業構想を立てている。
②	魅力ある題材の設定	造形的な知的好奇心を刺激したり, 学習意欲を高めたりするような題材を設定する。
③	対話や創作活動から自己を見つめる	言語等を用いて, 色や形などを観点に交流したり, 振り返ったりする場面を設け自己理解を促している。
④	造形的な技能の習得	表現しようとする意図に応じた技法や表現方法を試したり, 材料を体験したりする場面を設けている。
⑤	造形的な環境づくり	美術室をはじめ, 校内に日常的に作品を鑑賞できる環境を整えている。
⑥	鑑賞授業の充実	創造活動に関わることや世界と日本の文化等の鑑賞授業を行う。
⑦	美術館・大学等との連携した活動	美術館や大学, 関係諸機関等との関わりをもち, 人材・作品・資料等を活用しようとしている。
⑧	地域文化や行事の活用	身近な地域から題材を取り上げ, 生徒の体験・経験を生かした交流活動や創作活動をしている。
⑨	日常生活との関連	身の回りの日用品等に目を向け, 機能や美しさを追求したり, 生活を豊かにする美術の特性について気付いたりする活動を設けている。
⑩	他者との関わり合い	表現活動において, 用途や機能を基に交流したり, 検討したりを通して, 相手意識をもって発想したり構想したりする活動を行っている。

学び合い10 (保健体育)		
①	UD (ユニバーサルデザイン) の視点による授業づくり	生徒の実態, つまづきを把握して教材, 指導法の工夫や授業構成をしている。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や技能の習熟度を把握し, 単元単位で目標や指導計画を立案している。
③	ねらいの明確化	本時のねらいを明確に示している。
④	必要感・達成感ある課題の設定	生徒が自己の達成度やつまづきを理解し, 主体的に取り組める課題を設定している。
⑤	学習の見通しの提示	課題解決に向けた見通しをもたせる工夫をしている。
⑥	発問・説明, 肯定的な関わり	思考や気付きを促す発問や説明がされたり, 賞賛・助言・励まし等, 肯定的に関わったりしている。
⑦	場の設定・グループ編成	課題の発見や課題解決を促す場づくりとペアやグループ編成がされている。
⑧	学習形態の工夫	ペアやグループなど関わり合いの場を設けている。
⑨	話し合いのルール・方法の明確化	話し合いの目的を明確にし, ルールや方法を具体的に提示している。
⑩	評価・振り返り	学習カード等を活用し, 授業の振り返りをさせ, 次時への課題をもたせている。

学び合い10 (技術・家庭)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項, 他教科との関連を把握して授業を構成している。
②	題材の目標・指導計画	題材で身に付けさせたい力を明確にし, その実現に有効な“学び合い”の場を位置付けて計画している。
③	興味・関心のある課題	問題意識や学習意欲を高めるために, 身近な事象や好奇心をもてる事象から課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じて, 個・ペア・グループ・一斉などの学習形態を場面ごとに工夫している。
⑤	関わり合う場・協力する場	学習の深まりや課題解決を図るために, 教え合い, 共同作業, 話し合い, 発表の場などを取り入れている。
⑥	関わり合いの目的・ルール・方法	目的を明確にし, 話し合い, 発表など, それぞれルールを具体的に提示している。
⑦	実践的・体験的な活動	生活や社会で活用できる知識・技能の習得のために, 実践的・体験的な学習活動を設定している。
⑧	言語活動の充実	自分の考えや学習結果を言葉・文字・記号・図表などを活用して表現したり, 伝えたりする場を設定している。
⑨	生活や社会との関連	学んだことをもとに, よりよい生活や社会の実現について, 自分の考えをもたせるように学習を進めている。
⑩	評価・振り返り	学習活動を振り返ったり, 次の学習につなげたりするために, 観点を明確にした評価の場を設定している。

学び合い10 (道徳)		
①	学習環境と実態把握	グループや全体において自分の考えを主張でき、他者の考えを認め合う支持的風土を育て、生徒の実態や道徳性の高まりを把握して授業を構成している。
②	組織的な取組の推進	校長や道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、組織的に全体計画・年間指導計画等を作成し、年間35時間の道徳科を量的に確保している。
③	自分の問題として捉える課題設定	生徒が自分自身の問題と捉え、向き合える「考え、議論する」ことを可能にする学習課題を設定している。
④	「考え、議論する道徳」への転換のための指導方法の改善 (質の高い多様な指導方法)	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習で、自分との関わりにおいて多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を深める授業を工夫している。
⑤		生徒が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を自分事として考えるなどの問題解決的な学習を設定している。
⑥		様々な問題や課題を主体的に解決するために、道徳的行為に関する問題場面で実感を伴って理解できる体験的な学習を設定している。
⑦	他者の考えに触れ、議論を深める場の設定	ファシリテーション等で考えを拡散、構造化させ、思考ツールで考えを可視化し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を獲得している。
⑧	よりよい生き方を考え、振り返る場の設定	本時または一定のまとまりの中で学習を振り返り、可視化された多様な価値観から道徳的課題や価値に向き合い、よりよい方向を探る場を設定している。
⑨	評価の在り方と具体的な工夫	「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を個人内評価として丁寧に見取り、記述する様式や表現するための記録の蓄積方法を工夫している。
⑩		学習活動において生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを重視している。

学び合い10 (特別活動)		
①	必要感・達成感のある題材 (単元)	生徒の実態を把握し、生徒が興味・関心をもち意欲的に解決しようとする題材 (単元) を設定している。
②	題材 (単元) の目標・指導計画	生徒の実態に応じた題材 (単元) の目標や指導計画を立てている。
③	集団活動・体験的な活動	集団活動や体験的な活動を意識した授業を行っている。
④	問題の発見	生徒がよりよい学級や学校の生活づくりに関わる問題を見つける場を設定している。
⑤	自分の考えをもつ	生徒が自分の考えや意見をもてるよう工夫している。
⑥	学習形態の工夫	目標や実態に応じたペア・グループ・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑦	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑧	交流場面の設定	他と交流しながら考えを広げたり深めたりする場を設定している。
⑨	根拠をもとにした意思決定	問題解決の過程を通して、根拠をもとにした集団としての意思決定または自己決定を行う場を設定している。
⑩	実践・振り返り	活動または実践の過程と成果について、目標を基に振り返る場を設定している。

学び合い10 (進路指導)		
①	指導計画の作成	発達段階に応じた資質や能力、態度が身に付くよう計画している。
②	生徒理解と身に付けさせる能力	キャリア教育の視点から、生徒の実態と課題を把握し、どの活動場面で「基礎的・汎用的能力」を身に付けさせるか、指導計画に示している。
③	個の学びの設定	学習活動において、将来の生き方や進路について自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	学び合いや発表のルールと方法	学び合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑤	体験的な活動とグループ活動	職場体験やグループ学習を通して、将来について自分の考えや意見をもったり、深めたりする活動を設定している。
⑥	教科・領域との横断的な学習	キャリア教育との関連をはかり、各教科、領域での学習内容と将来の自分の生き方に関わるよう、横断的な学習をしている。
⑦	学習環境の整備	図書館の資料やパソコン等のメディアを活用したり、校外で体験活動を展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑧	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見出した課題が今後の生き方とどのように関わるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。
⑨	地域・家庭・高等学校等との連携	生徒が、日常生活や社会との関わりの中で進路学習が展開できるよう、地域・家庭と進路先となる高等学校等と連携を図っている。
⑩	自己決定・自己実現	自分の将来について考え、自分の意思で進路を選択し、自己実現できるよう支援している。

学び合い10（総合的な学習の時間）		
①	指導計画の工夫	小学校での取組を踏まえるとともに、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、目指す資質や能力、態度が身に付くように計画している。
②	課題設定	日常生活や実社会に目を向けて、生徒自らが、「ひと・もの・こと」と自分との関わりの中から課題を設定している。
③	個の学びの設定	学習活動において、自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	体験的な活動の工夫	体験活動を探究的な学習の過程に位置付け、他者と協働して活動できるよう工夫している。
⑤	交流の場の設定	学習対象をより多面的・多角的に捉えたり、自分の考えや意見を深めたり広げたりする交流の場を設定している。
⑥	学習環境の整備	図書館やPC室などで資料やICTを活用したり、校外でのフィールドワークを展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑦	地域・家庭との連携	生徒が、日常生活や実社会との関わりの中で学習活動を展開できるよう、地域や家庭と連携を図っている。
⑧	話し合いや発表のルールや方法	話し合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑨	追究や表現の仕方の工夫	情報の集め方や調べ方、整理や分析の仕方、まとめ方など、目的や相手に応じた追究や表現の仕方の具体例を示したり、経験させたりしている。
⑩	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見いだした課題が今後の自分の生き方とどのように関わるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。

学び合い10（学校保健）		
①	指導目標・指導計画	中学生期の発育・発達や健康上の特性を把握した指導目標や指導計画を立てている。
②	生徒の実態把握	生徒の実態や問題点を把握して授業を構成している。
③	必要感のある課題設定	生徒が直面している問題の中で、自らの課題だと気付くことができる課題を提示している。
④	関わり合う場の設定	目的をもって、生徒同士関わり合う場を取り入れている。
⑤	自尊感情を高めあう場の設定	他者との関わり合いを通して、自分を大切に思う気持ち、お互いを尊重する気持ちをもたせている。
⑥	実践化への意欲付け	理想の姿を描くことで、意思決定や行動選択をし、実践していこうとする意欲付けをしている。
⑦	家庭や地域との連携	学校でできること、なすべきことを明確化し、家庭や地域での実践を促している。
⑧	振り返り、内省の場の設定	生涯にわたって、自分の健康を管理していこうとする気持ちをもたせる。
⑨	各教科との関連	健康という共通の目標を目指して、他教科と連携をしている。
⑩	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。

県中教研 15部会の重点方針

	重点方針
国語	<p>言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもって学習する国語の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。 ○考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。 ○話の内容や意図に応じた表現力を育てる。 ○目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。
社会	<p>自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会科の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。 ○学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。 ○資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。
数学	<p>数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の確かな習得を図るとともに、数学的な見方や考え方のよさを実感できるようにし、それらを活用して課題解決に主体的に取り組める学習指導の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の習熟を図るとともに、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を育成する。 ○生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題で学び合う学習を計画的に実施する。 ○生徒自らが学習の振り返りができるよう、学び直しの機会を設ける。
理科	<p>目的意識をもって科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験の予想を検討したり、結果を整理し考察・吟味する学習活動の充実を図ることを通して、目的意識に裏打ちされた科学的な思考力、表現力を高める。 ○他者との関わりや問題解決的な活動を展開することを通して、科学的な見方・考え方を育てる。 ○地域の環境や学校の実態を生かした自然体験、科学的な体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。
音楽	<p>生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽のよさを感じ、伝え、関わり合いながら学び、考える授業を展開する。 ○音楽を形づくっている要素を支えとして、思いや意図をもって表現する生徒を育てる。
美術	<p>生涯にわたり、美術を生活に取り入れられたり、楽しんだりする生徒の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に関わる「人・もの・こと・自然」を活用した授業を取り入れる。 ○対話のある授業によって、思考を働かせ、発想力が高まったり、お互いの考えを認め合ったりする生徒を育てる。
保健体育	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、明るく豊かなスポーツライフを実現する資質能力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態把握の充実 ○保健体育の見方・考え方を働かせることを意識した授業 ○学習過程、単元構成の見直し、工夫及び指導と評価の一体化の工夫、充実 ○楽しい授業、UDLの推進 ○個に応じた運動量の確保と体力の向上
技術・家庭	<p>実践的・体験的な学習活動を通して基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、学習したことを生かして、よりよい生活、社会を目指そうとする能力と態度の育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活実態や社会状況を適切に把握し、学習意欲を高め、生活との関連を重視した指導計画や教材開発に努める。 ○学習結果や技術と家庭や社会との望ましい関係等について、自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動場面を設定する。

	重点方針
英語	<p>学習指導要領(外国語)の趣旨を正しく理解し、その目標を実現する取組を着実に推進する中で、適切な言語活動を通して、英語で目指す資質・能力を確実に育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○CAN-DOリストから単元の学習到達目標を設定・共有し、どの生徒も無理なく目標に迫ることができるように指導内容をバックワードで配列して行う指導を徹底する。 ○学習指導要領に示されている4技能5領域における言語活動例を視点に、折に触れて自校の指導の現状をチェックし、領域に偏りが無いようバランスよく指導する。 ○即興的な表現力を育む言語活動を継続的に授業に位置づけ、進歩を実感させながら生徒の主体性や学習意欲を維持・増進させ、自立して学び続ける生徒を育成する。
道徳	<p>道徳的諸価値についての理解と自覚を深める手立てを講じ、よりよい生き方を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考え、議論する道徳」に向けて求められる質の高い多様な指導方法を展開し、量的確保と質的転換を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。①登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習等のそれぞれの要素を組み合わせた指導も可とする。 ○ファシリテーション等で多面的・多角的に考えを拡散し、フレームワーク(思考ツール)で生徒の考えを可視化(構造化)し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を得る手立てを講じる。 ○自分や学びにじっくりと向き合い、自覚を深め、よりよい生き方を考えて道徳性を養う。
特別活動	<p>望ましい人間関係を築き、集団や社会の一員として、よりよい集団生活を実現する生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実を図る。 ○自分の考えを発表したり、他と交流したりしながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定する。
生徒指導	<p>いじめや問題行動、不登校の未然防止と早期発見・早期対応に努めるため、組織的・計画的な生徒指導を推進する。その際、対応のみに終始することなく、自他の個性を尊重し、生徒が互いに認め合い、協力し合うよりよい人間関係の構築を目指し、生徒の自己指導能力と社会性の育成を基盤とした生徒指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめは対人関係における問題との視点に立ち、全教育活動を通じて人権感覚を養うとともに、生徒主体の社会性育成活動を実施し、明確な指導方針のもとに組織的な取組を進める。 ○すべての生徒にとって居心地のよい学校を目指し、将来の社会的自立に向けた生き方支援に努める。特に生命や性、携帯電話等に関わる今日的な問題については、家庭や地域、関係機関とも連携した粘り強い取組を進める。 ○中学校区の小中学校及び関係機関との情報交換や行動連携に努め、自然体験や社会奉仕体験、職業体験などによる地域社会との関わりを通して、自律性や主体性を育む。
進路指導	<p>自らの生き方を考え、夢や希望をもって主体的に進路を選択できる生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己理解を深める指導を充実させる。 ○生徒一人一人の将来に対する目的意識を高め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。 ○勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実を図る。
総合	<p>学習過程と評価を中核に、主体的・対話的で深い学びが実現できるような学習指導を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習過程において、「課題設定」を工夫し、「協働的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して、探究的な学習の充実を図る。 ○「育てようとする資質や能力及び態度」の視点に配慮した評価の観点を定め、それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し、学習評価の充実を図る。
学校保健	<p>生きる力を育む健康教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○連携・協働しながら組織的に取り組む健康教育活動を展開する。 ○生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援の在り方について研修を進める。

編集後記

新潟県中学校教育研究会

理事長 藤本 洋則

(新潟市立内野中学校 校長)



コロナ禍を乗り越え、「深い学び」へ

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、県中教研の諸事業を凍結いたしました。これに伴い、例年発行していた「授業情報誌Class」は、リーフレット「授業情報誌Class別刊・学びを止めない」として発行することになりました。通常とは大きく異なる形となりましたが、コロナ禍における各郡市・各校の取り組みを紹介し、「学びを止めない」ための工夫や熱意を共有することで今年度の研究につなげることができたと考えます。このたび、各郡市中教研の研究の成果として「授業情報誌Class第6号」を発刊できることに感謝申し上げます。

振り返ると、この1年間で学びを取り巻く状況は大きく変わりました。

感染の拡大予防に配慮した活動形態や、GIGAスクール構想により導入された一人一台のタブレット端末の導入がその最たるものかと思われまます。

今までファシリテーションで多く行われてきた話し合い活動は、近距離・対面での活動として、これまでの形態をそのままに行うことが難しくなりました。

各校においては、書く・描くことによる「可視化」を担保するために、距離を確保して実施したり、「対話」を維持するために、衝立を設置して実施したりするなど、目的・手法を精査し、工夫を施した実践が行われました。さらにホワイトボードや大型ディスプレイを活用したプレゼンテーションなども行われ、これらの対応により、話し合い活動の教育的効果は維持されることとなりました。

また、一人一台のタブレット端末とそれらをつなぐオンライン環境を新たな学び合う手法として活用することの取り組みも大きく推進されることになりました。

生徒のタブレット端末の活用における習得のスピードは目覚ましいものがあり、わずか半年余りで、資料やデータを駆使して主体的に課題を追求し、アプリケーションや大型ディスプレイを使って対話し、アウトプットしていく様子が見られます。

その一方で、一斉に黙々とキーボードを叩いている光景が見られることもあり、その見慣れない光景に不安を覚えた方もいるかもしれません。

「深い学び」がどのように構築され、どのような姿として表出され、そしてそれをどのように見取り、評価していくかは今後も研究をすすめていく必要があります。

授業情報誌Class第6号では、各指定研究ページの冒頭に「こんな深い学びの姿を目指します」が記載されています。また、今号から新しい試みとして記事を単色印刷としております。ご一読いただき、さらなる研究の推進にご活用いただきたいと思います。

今年度、各指定研究は再開されましたが、参観者の制限やオンライン参加の導入等、昨年度の経験に学びながら、新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を講じて行われることとなります。様々な制限の中での参観となりますが、各郡市研究推進委員会の提案する「深い学びの姿」に着目し、「学び合う授業」が「深い学びにいたる」ためにどのように有効であるかを確認し、さらに良い授業を創り上げていきましょう。

終わりに、「授業情報誌Class」の編集にあたり、貴重な原稿をいただいた全県部長・副部長、指定研究会場校の皆さん、各研究推進委員の皆さん、編集に関わった事務局に感謝申し上げ、編集後記といたします。



新潟県中学校教育研究会

授業情報誌 **Class** ・ **学び合う授業**

第6号 2021年10月

ISSN 2189-8111